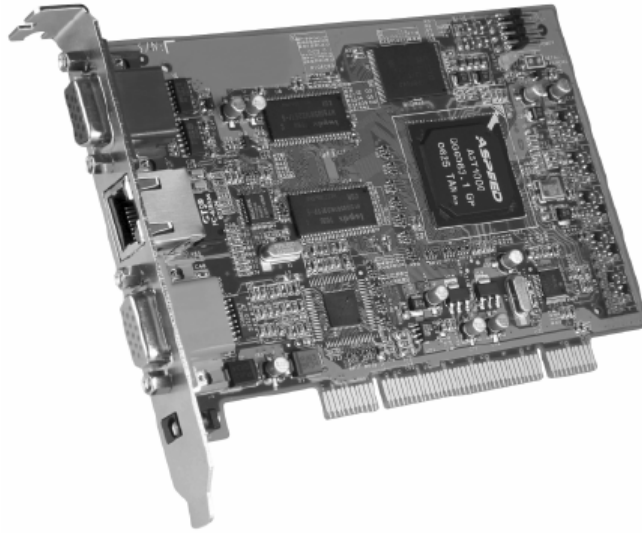


# IP8000

## 日本語版ユーザーマニュアル



### 本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、IP8000 取り扱いの便宜を図るため、製品同梱 英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く変更されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、製品同梱の英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術サポート部

TEL :03-5323-7178

MAIL :support@atenjapan.jp

2008 年 10 月 16 日

## ユーザーの皆様へ

---

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く変更されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニタ、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

## ATEN ジャパン製品保証規定

---

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応となりますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 納品日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障または破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

### 【製品保証のお申し込み手順】

弊社の製品保証規定に従い保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

- (1) **不具合の確認**……製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口へ連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。
- (2) **本規定に基づく製品保証のご依頼**……(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『製品納品日が証明できる書類』を用意して、製品を購入された販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。
- (3) **製品の発送**……不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

## 【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品／液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～3 年	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～2 年	無償修理
	2 年以上	有償修理※2

※1…製品納品日から30 日以内に弊社または販売店に申告を頂いた不具合を初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途お問い合わせください。

※ケーブル類、電源アダプタ、その他レールキット等のアクセサリ類はDOA・初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL(生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。

※本保証期間は2007年9月1日以降にご購入された場合に適用されます。それ以前に購入された製品については、1年間の保証となります。

## 【補足】

- ・ 本規定はATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- ・ ケーブル類・電源アダプタは初期不良対応に準じます。
- ・ 初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。
- ・ 製品保証を受けるにあたり、製品の納品日が証明できない場合は製品のシリアルナンバーから判別した製造日を起算日とします。ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、全て有償修理とさせていただきます。

## 製品についてのお問い合わせ

---

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

<b>購入前のお問い合わせ</b>	ATEN ジャパン株式会社 営業推進部 TEL:03-5323-7170 MAIL:sales@atenjapan.jp
<b>購入後のお問い合わせ</b>	ATEN ジャパン株式会社 技術サポート部 TEL :03-5323-7178 MAIL :support@atenjapan.jp

# 目次

---

FCC.....	10
RoHS .....	10
SJ/T 11364-2006 .....	10
安全にお使い頂くために .....	11
一般的な注意.....	11
同梱品 .....	13
本マニュアルについて.....	14
マニュアル表記について .....	15
<b>第1章 はじめに.....</b>	<b>16</b>
製品概要.....	16
特長.....	18
システム要件 .....	19
一般.....	19
ビデオ .....	19
ケーブル.....	20
オペレーティングシステム .....	20
バーチャルメディアとして使用可能なデバイス .....	20
製品各部名称 .....	21
<b>第2章 ハードウェアセットアップ .....</b>	<b>22</b>
作業をはじめる前に.....	22
基本的なセットアップ.....	22
システムケーブルのセットアップ .....	24
<b>第3章 Web ブラウザによるログイン.....</b>	<b>27</b>
ログイン .....	27
画面項目 .....	30
ユーティリティアイコン .....	30
管理メニューアイコン .....	31
Remote Console Preview .....	31
<b>第4章 管理メニュー .....</b>	<b>33</b>
はじめに .....	33
General .....	34
Network.....	35
Access Ports .....	36

IP Address .....	37
DNS Server .....	37
変更内容の確定 .....	37
<b>Security .....</b>	<b>38</b>
概要.....	38
フィルタリング機能.....	39
<b>ANMS .....</b>	<b>41</b>
RADIUS Settings.....	41
パラメータ入力例 .....	42
CC Management Settings .....	43
Log Server Settings .....	43
<b>User Management.....</b>	<b>44</b>
<b>Customization.....</b>	<b>46</b>
<b>Firmware.....</b>	<b>49</b>
<b>第 5 章 Windows クライアント .....</b>	<b>50</b>
はじめに .....	50
ローカルデスクトップの操作方法 .....	51
Windows クライアントコントロールパネル.....	52
Hotkey Setup.....	54
Video Settings .....	56
Virtual Media.....	57
Message Board.....	59
<b>第 6 章 Java アプレット .....</b>	<b>62</b>
はじめに .....	62
ローカルデスクトップの操作方法 .....	63
Java アプレットコントロールパネル.....	63
Hotkey Setup.....	65
Video Settings .....	67
Message Board.....	68
Ctrl + Alt + Del.....	71
Exit.....	71
Lock LEDs.....	71
<b>第 7 章 ログファイル.....</b>	<b>72</b>
ログファイル画面 .....	72
<b>第 8 章 ログサーバ.....</b>	<b>73</b>
セットアップ .....	73

ログサーバのインストール .....	73
<b>ログサーバの起動 .....</b>	<b>74</b>
<b>メニューバー .....</b>	<b>75</b>
Configure .....	75
Events .....	76
Options .....	78
Help .....	79
<b>ログサーバ メイン画面 .....</b>	<b>80</b>
概要 .....	80
リストパネル .....	81
イベントリストパネル .....	81
<b>第9章 IP8000 ユーティリティソフトウェア .....</b>	<b>82</b>
はじめに .....	82
<b>アプリケーション版 Windows クライアント .....</b>	<b>82</b>
インストール .....	82
Windows クライアントの起動 .....	83
Windows クライアント接続画面 .....	84
ログイン .....	85
<b>アドミニストレーターユーティリティ .....</b>	<b>87</b>
General .....	87
Network .....	89
Security .....	90
ANMS .....	91
User Management .....	92
Customization .....	93
ファームウェアのアップグレード .....	94
<b>アプリケーション版 Java クライアント .....</b>	<b>95</b>
Java クライアントの起動 .....	95
Java クライアント接続画面 .....	96
ログイン .....	96
<b>付録 .....</b>	<b>97</b>
<b>製品仕様 .....</b>	<b>97</b>
<b>IP アドレスの設定 .....</b>	<b>98</b>
コンピュータアドレスのリセット .....	98
Windows クライアント .....	99
<b>アドミニストレーターでログインできない場合 .....</b>	<b>100</b>

<b>トラブルシューティング</b> .....	<b>101</b>
概要.....	101
Windows クライアント.....	101
Java クライアント .....	102
ログサーバ .....	103
Sun .....	104
<b>その他のマウス同期方法</b> .....	<b>105</b>
Windows .....	105
Sun / Linux.....	107
<b>信頼された証明書</b> .....	<b>108</b>
概要.....	108
証明書のインストール.....	109
証明書のインストール完了 .....	110
<b>SPHD コネクタについて</b> .....	<b>111</b>

## FCC

本製品はFCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。

この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

## RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

## SJ/T 11364-2006

The following contains information that relates to China.

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

○: 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。

●: 表示符合欧盟的豁免条款, 但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。

×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。



## 安全にお使い頂くために

---

### 一般的な注意

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。

- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。
- ◆ ホットプラグ対応パワーサプライの取り付け、または取り外しする場合は、以下の注意事項に従ってください。
  - 電源ケーブルを接続する前に、パワーサプライのセットアップを行ってください。
  - パワーサプライを取り外す前に電源ケーブルを抜いてください。
  - お使いのシステムが複数のパワーサプライをお使いである場合、パワーサプライからすべての電源ケーブルを抜いてお使いのシステムから切り離してください。
- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
  - 電源コードが破損した。
  - 装置の上に液体をこぼした。
  - 装置が雨や水にぬれた。
  - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
  - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
  - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。

## 同梱品

---

IP8000 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ IP8000 リモートアクセス PCI カード ×1
- ◆ KVM ケーブル ×1
- ◆ システムケーブル ×1
- ◆ 電源アダプタ ×1
- ◆ ソフトウェア CD ×1
- ◆ 英語版ユーザーマニュアル ×1
- ◆ 多言語版クイックスタートガイド ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

## 本マニュアルについて

---

このユーザーマニュアルは、IP8000 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

**第1章 はじめに:** IP8000 を紹介します。特長および機能の概要および製品各部名称について説明します。

**第2章 ハードウェアセットアップ:** IP8000 セットアップの方法について説明します。

**第3章 Web ブラウザによるログイン:** Web ブラウザによる IP8000 へのログイン手順、および、画面上における各アイコンおよびボタンの機能について説明します。

**第4章 管理メニュー:** IP8000 の操作環境の設定方法について説明します。

**第5章 Windows クライアント:** Web ブラウザベースの Windows クライアントによる IP8000 への接続方法、および、IP8000 が取り付けられたサーバへの OSD によるアクセス方法と操作方法について説明しています。

**第6章 Java アプレット:** Java アプレットによる IP8000 への接続方法、および、IP8000 が取り付けられたサーバへの OSD によるアクセス方法と操作方法について説明しています。

**第7章 ログファイル:** ユーティリティを使用した、IP8000 におけるイベントログの参照方法について説明します。

**第8章 ログサーバ:** ログサーバのインストール、設定、使用に関する各方法について説明します。

**第9章 IP8000 ユーティリティソフトウェア:** Web ブラウザを使用しないスタンドアロンタイプの、Windows、Java 対応の各専用ソフトウェアの設定および操作方法について説明します。

**付録** 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明しています。



# 第1章 はじめに

## 製品概要

---

IP8000 は、セットアップされたサーバに Over-IP 機能を提供する PCI カード型のコントロールユニットです。IP8000 はローカルコンソール操作に加え、遠隔地から標準的なインターネットブラウザやスタンドアロンのアプリケーションを使用した、サーバのマルチプラットフォームアクセスおよび操作を実現します。

IP8000 のセットアップは、製品本体をコンピュータの PCI スロットに挿入し、その LAN ポートにネットワークに接続しているカテゴリ 5 LAN ケーブルを接続することで行います。IP8000 は通信プロトコルに TCP/IP を使用しておりますので、インターネットに接続されているコンピュータであれば、その場所がホールや街角、果ては地球の裏側であっても、本製品がセットアップされているサーバにアクセスすることができます。

ユーザーの操作性を重視し、本製品はユーザーフレンドリーなブラウザ版の Windows クライアントや Java アプレット、また、スタンドアロンのアプリケーション版である Windows クライアント、Java アプレットを提供しております。とりわけ、Java アプレットは、プラットフォームを選ばないので、Java がご利用いただけるコンピュータであれば、このアプリケーションを使用して本製品がセットアップされたサーバにリモートアクセスすることが可能です。

リモートユーザーは IP アドレスを使って IP8000 に接続します。接続が確立し、ログインに成功すると、リモートユーザーが入力した、キーボード、ビデオ、マウスの各信号は IP8000 がセットアップされているサーバに送られ、あたかもそのサーバを直接作業しているかのように快適にお使いいただけます。

本製品付属のアドミニストレーターユーティリティは、システム設定、リモートコンピュータからのアクセス制限、ユーザー管理、ファームウェア・ソフトウェアのアップグレードによるシステムメンテナンスといった機能を備えております。これに加え、ログサーバでは、IP8000 のシステムイベントログをすべて記録しますので、管理者は保守作業にこれらの情報を活用することも可能です。

システム管理者は IP8000 によって、GUI アプリケーションのインストールから、定期メンテナンス、システム管理、リポートやブート前の作業に至るまで、システムメンテナンスにかかわる膨大な作業を簡単に行うことができます。

ご購入いただいた IP8000 は、ファームウェアアップグレードユーティリティで定期的にファームウェアを更新していただくことで、常に最新の機能をご利用いただけます。最新版のファームウェアはリリースされると弊社 Web サイトに公開されますので、このファームウェアアップグレードユーティリティを使ってファームウェアを簡単に製品に適用することができます。

## 特長

---

- ◆ 標準的な PCI カード 1 枚で、世界のどこからでもサーバの Over IP アクセスおよびコントロールを実現
- ◆ USB2.0 データ転送によるリモートバーチャルメディア機能
- ◆ リモート電源管理・リセットに対応
- ◆ 最大 64 ユーザーアカウントの作成が可能 - 最大 32 ユーザーによる同時アクセスに対応 (シングルバス共有時)
- ◆ メッセージボード機能 - ログイン中のユーザー間のコミュニケーションを実現。また、コンピュータ操作の排他制御が可能
- ◆ 外部認証対応 - RADIUS の使用が可能
- ◆ Web ベースの Windows/Java クライアント - Web ブラウザの種類を問わず、サーバの操作を実現
- ◆ Web ブラウザを使用しない環境でもお使いいただけるアプリケーション版 Windows/Java クライアント - とりわけ、Java クライアントはすべてのプラットフォームでの実行が可能
- ◆ 対応プロトコル - TCP/IP、HTTP、HTTPS、UDP、DHCP、SSL、ARP、DNS、ICMP、CHAP
- ◆ 10-BaseT、100Base-TX 対応
- ◆ ビデオ解像度 - 最大 1,600×1,200@60Hz、リモートセッションの 24-bit 色深度を実現
- ◆ グレースケールモードとビデオ画質の設定によって帯域幅を最適化
- ◆ 先端のセキュリティ対策 - パスワード保護および暗号化技術を採用
- ◆ 128-bit SSL 暗号化通信対応
- ◆ ブラウザ操作の有効/無効の選択が可能
- ◆ 3 段階のユーザーアクセスコントロール - マルチアドミニストレーター、ユーザー、ビューワのユーザーランクから選択が可能
- ◆ イベントログ保存機能
- ◆ リモートからのファームウェアアップグレードが可能
- ◆ ホスト側対応 OS - Windows 2000/2003/XP/NT、Red Hat Linux 7.1 以降、FreeBSD、Novell

## システム要件

---

### 一般

- ◆ 最適な状態でお使いいただくために、IP8000 にアクセスするコンピュータは、Pentium III 1 GHz 以上のプロセッサを搭載し、1,024×768 の解像度に対応しているものをお使いください。
- ◆ ブラウザは 128-bit SSL 暗号化通信に対応しているものをお使いください。
- ◆ インターネットにおけるデータ転送速度が 128kbps 以上の環境を推奨します。
- ◆ Web ブラウザベースの Java アプレットおよびアプリケーション版 Java クライアントをご利用いただく場合は、お使いのコンピュータに Sun Java Runtime Environment (JRE) 6 Update3 以降のバージョンをインストールしてください。
- ◆ ログサーバをご利用いただく場合は、Microsoft Jet OLEDB4.0 以降のドライバをインストールしてください。

### ビデオ

本製品は下表の**非インタレース**のビデオ信号にのみ対応しています。

解像度	リフレッシュレート
640 × 480	60, 72, 75, 85, 90, 100, 120
720 × 400	70, 75
800 × 600	56, 60, 72, 75, 85, 90, 100, 120
1,024 × 768	60, 70, 75, 85, 90, 100
1,152 × 864	60, 70, 75, 85
1,280 × 1,024	60, 70, 75
1,600 × 1,200	60

## ケーブル

- ◆ 製品には、本体とサーバの接続に使用するカスタム KVM ケーブル、および、製品とマザーボード上の電源コントロールヘッダの接続に使用するシステムケーブルが同梱されています。

---

**注意:** 上記のケーブルは IP8000 での使用を目的として設計されております。製品のセットアップには、必ずこれらの専用ケーブルをお使いいただきますようお願いいたします。

---

- ◆ 製品をネットワークに接続する場合は、カテゴリ 5 以上のケーブルをお使いください。

## オペレーティングシステム

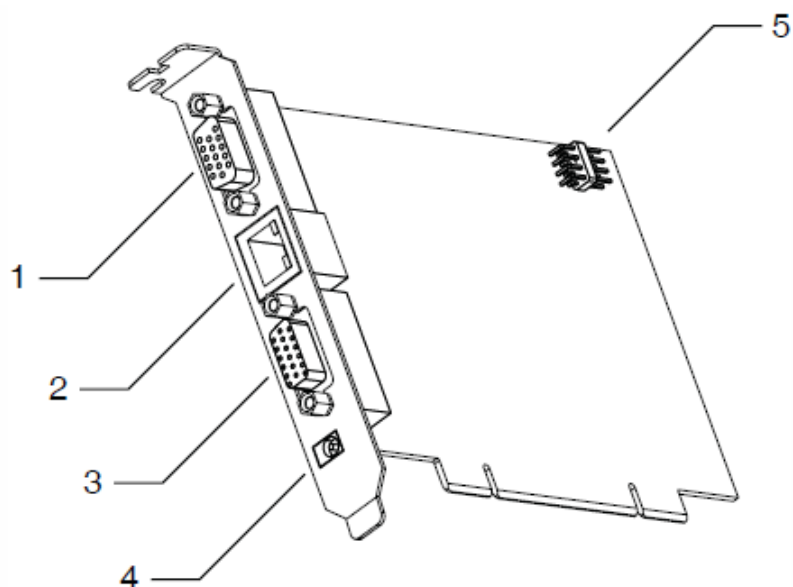
本製品と接続可能なサーバの OS は下表のとおりです。

OS	バージョン	
Windows	2000 以降	
Linux	RedHat	7.1 以降
	SuSE	8.2 以降
	Mandriva (Mandrake)	9.0 以降
UNIX	AIX	4.3 以降
	Free BSD	4.2 以降
Novell	Netware	5.0 以降

## バーチャルメディアとして使用可能なデバイス

- ◆ USB CDROMドライブ
- ◆ USB フロッピードライブ
- ◆ USB フラッシュメモリ
- ◆ IDE CDROMドライブ
- ◆ イメージファイル

## 製品各部名称



No.	名称	説明
1	モニタポート	セカンドコンソールとしてお使いのモニターケーブル (D-sub15 ピン対応) をここに接続します。
2	LAN ポート	ネットワークに接続しているカテゴリ 5 LAN ケーブルをここに接続します。
3	KVM ポート	サーバのモニタポートおよび USB ポートに接続している KVM ケーブルをここに接続します。
4	電源ジャック	電源アダプタのケーブルをここに接続します。  <b>注意:</b> 電源アダプタの使用はオプションですが、リモートから IP8000 経由でサーバに電源を入れる際には、この電源アダプタを必ずご使用ください。電源アダプタを使用しないと、このリモート電源操作機能はご利用いただけません。
5	システムケーブルコネクタ	システムケーブルをここに接続します。詳細については p.24「システムケーブルのセットアップ」をご参照ください。

## 第2章

# ハードウェアセットアップ

### 作業をはじめる前に

---



1. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピュータの電源ケーブルも抜いてください。
2. 静電気放電(ESD)に注意してください。製品は、セットアップ作業を行うまで静電気防止バッグに入れて保管しておいてください。また、アダプタカード、プリント基板、またはメモリモジュールの各コンポーネントやコネクタに接触しないように注意してください。これらのコンポーネントはマウント用金具を使用して取り扱ってください。
3. 製品の開封およびセットアップは接地線が取り付けられた静電気防止マットの上で行ってください。また、作業の際には、静電気防止リストバンドを静電気防止マットに接地し、それを着用した上で作業を進めてください。静電気防止マットのかわりに、1MΩの抵抗器を通して接地された、伝導性アルミホイルのシートをお使いいただくことも可能です。また、帯状のアルミホイルを手首に巻き、そのアルミホイルを1MΩの抵抗器を通して接地することでも、リストバンド着用時と同じような静電気防止効果が得られます。

### 基本的なセットアップ

---

IP8000 をサーバのマザーボードの PCI スロットに挿入したら、次のページの接続図(図内における番号は下記の作業手順に対応)を参考にし、以下の手順で作業を行ってください。

1. ローカルモニタのケーブルを IP8000 のモニタポートに接続してください。
2. ローカルキーボードおよびマウスを、サーバのキーボード、マウスの各ポートにそれぞれ接続してください。

---

**注意:** 以下の接続図は、PS/2 対応のマウスおよびキーボードを使用してセットアップを行った作業を例にとって説明しています。USB 対応のマウスやキーボードを使用する際には、USB ポートを使って接続してください。

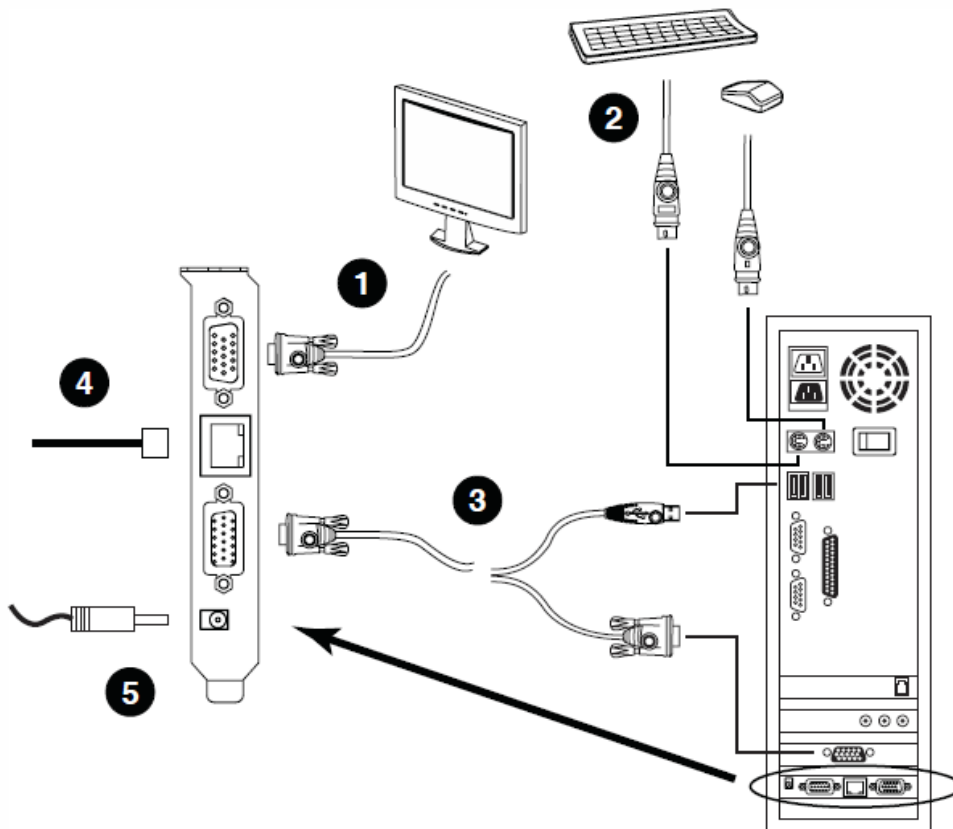
---

3. 製品に同梱されている KVM ケーブルで、IP8000 の KVM ポートと、サーバのビデオポートと USB ポートをそれぞれ接続してください。
4. ネットワークに接続しているカテゴリ 5 LAN ケーブルを IP8000 の LAN ポートに接続してください。
5. 電源アダプタのケーブルの部分を IP8000 の電源ジャックに接続し、アダプタの部分をコンセントに挿してください。

---

**注意:** 電源アダプタの使用はオプションですが、リモート操作による電源 ON 機能を利用する際には、この電源アダプタを必ずご使用ください。電源アダプタを使用しないと、この機能はご利用いただけません。

---



---

**注意:** IP8000 はサーバの PCI スロットに挿入して使用しますが、製品自体は自身の動作環境を持っており、セットアップされたサーバからは独立して動作しますので、製品がセットアップされたサーバのリモート操作はもちろんのこと、別のサーバと接続して、そのサーバをリモート操作することもできます。

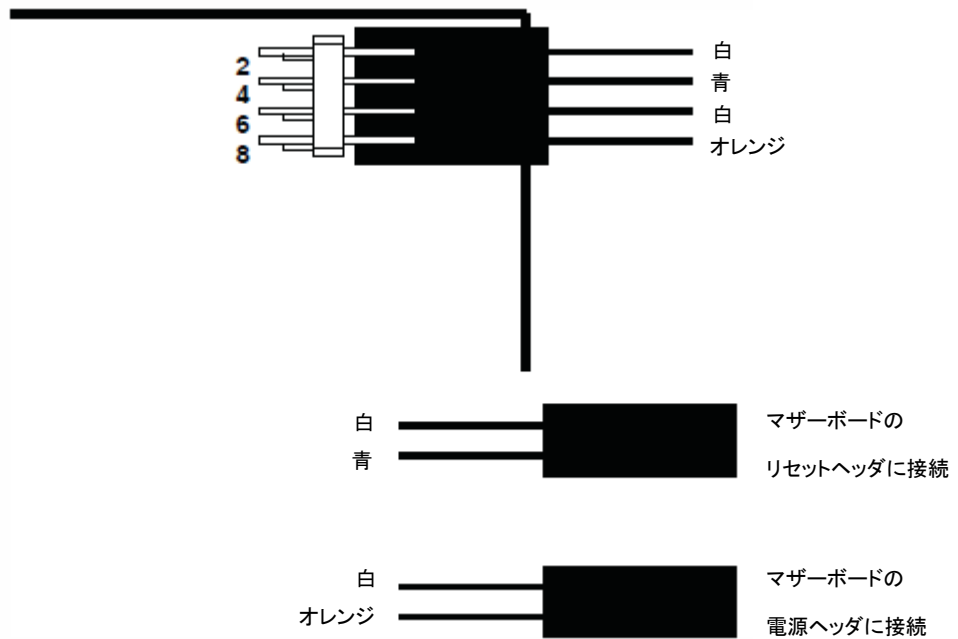
---

## システムケーブルのセットアップ

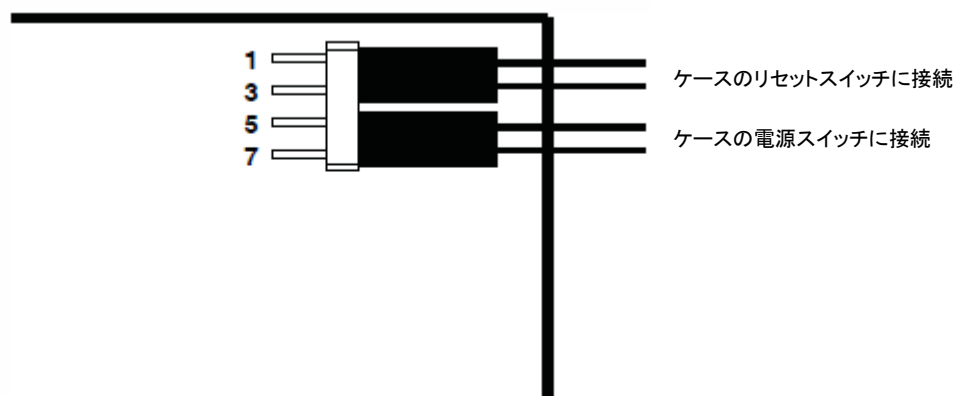
---

システムケーブルをセットアップすると、製品がセットアップされたサーバのリモート電源操作やリセットを行うことができるようになります。このケーブルは製品右上にあるヘッダブロックに接続します。ブロックは上下 2 列のピンから構成されており、上列には奇数の番号(1、3、5、7)が付番されたピンが、また、下列には偶数の番号(2、4、6、8)が付番されたピンがそれぞれ配置されています。システムケーブルのセットアップは以下の手順で行ってください。

1. システムケーブルの大きいほうのコネクタ(線が 4 本すべて含まれているもの)を、白い線が上に、また、オレンジの線が下になるようにして、下列のピン(ピン 2~8)に挿してください。
2. コンピュータのマザーボード上にあるリセットピンヘッダからリード線を抜いてください。(このリード線はコンピュータのケースのリセットスイッチから配線されています。)
3. 白と青の線が付いているシステムケーブルのコネクタをマザーボードのリセットピンヘッダに挿してください。
4. コンピュータのマザーボード上にある電源ピンヘッダからリード線を抜いてください。(このリード線はコンピュータのケースの電源スイッチから配線されています。)
5. 白とオレンジの線が付いているシステムケーブルのコネクタをマザーボードの電源ヘッダに挿してください。



6. コンピュータケースのリセットスイッチから配線されているリード線を、システムケーブルのピンヘッダの上列 1~3 のピンに挿してください。
7. コンピュータケースの電源スイッチから配線されているリード線を、システムケーブルのピンヘッダの上列 5~7 のピンに挿してください。



---

**注意:** システムケーブルから配線されているリード線をマザーボードのヘッダに接続する際、また、ケースから配線されているリード線をシステムケーブルのヘッダに接続する際には、各線がどのピンに接続しているかを特に注意する必要があります。

---

## 第3章

# Web ブラウザによるログイン

IP8000 は、インターネットブラウザ、またはスタンドアロン版の Windows/Java クライアントアプリケーションのどちらからでもアクセスが可能です。以下、第 7 章まで Web ブラウザを使用した IP8000 の操作方法について説明します。スタンドアロン版のクライアントアプリケーションについては第 9 章で説明しますので、そちらをご参照ください。

## ログイン

---

インターネットブラウザから IP8000 にアクセスする場合は、以下の手順で操作してください。

1. ブラウザの URL バーに IP8000 の IP アドレスを入力し、IP8000 にアクセスしてください。

---

### 注意:

1. セキュリティのために、管理者によって IP8000 にログイン文字列がセットされていることがあります。この場合は、ログインする際に、IP8000 の後ろにスラッシュを続け、その後にログイン文字列を入力してアクセスしなければなりません。例えば、IP8000 に設定されている IP アドレスが「192.168.0.100」、ログイン文字列が「ip8k」に設定されている場合、URL バーに以下のように入力してアクセスします。

192.168.0.100/ip8k

IP8000 の IP アドレスやログイン文字列がご不明な場合は、管理者にご確認ください。

2. アドミニストレーターの初回ログイン時には、IP8000 の IP アドレスを設定する必要があります。方法についてはいくつかありますので、詳細については p.98 をご参照ください。
-

2. 以下のような「セキュリティの警告」ダイアログが表示されます。



この証明書は信頼できるものですので、これを受け入れてください。(p.108「信頼された証明書」参照) 2つ目のダイアログが表示された場合も同様に受け入れてください。

IP8000 のログイン画面が表示されます。



3. 管理者に設定された、IP8000 で有効なユーザーネームとパスワードを入力し、「Login」ボタンをクリックしてログインしてください。

- 
- 注意:**
1. IP8000 にアドミニストレーターとして最初にログインする場合は、以下のデフォルトユーザーアカウントをお使いください。  
ユーザーネーム: administrator  
パスワード: password  
セキュリティのためにも、このアカウントを変更して、新しいアドミニストレーターを作成して運用いただくことを推奨します。(p.44「User Management」参照)
  2. ログイン時に入力したユーザーネームまたはパスワードに誤りがあり、ログインに失敗すると、ログイン画面の各項目はブランクになります。このような場合は、正しいユーザーネームとパスワードを入力して再ログインしてください。
- 

ログインに成功すると、以下のような IP8000 メイン画面が表示されます。







## 画面項目

IP8000 のメイン画面は、左側に縦一列に並んでいるユーティリティアイコンと、上に一列に並んでいる管理メニューアイコン、および、中央にあるJava アプレットとWindows クライアントの各起動アイコンが下に表示されたリモートコンソールプレビューから構成されています。

**注意:** 画面には、ユーザーが操作権限を与えられている機能のアイコンのみが表示され、権限のないものは表示されません。操作権限の詳細については p.44 の「User Management」をご参照ください。

## ユーティリティアイコン

IP8000 の Web 画面左側に表示されている各アイコンの機能は以下のとおりです。

アイコン	機能
	<b>Remote Console:</b> このアイコンをクリックすると、現在 Web 画面に表示されているメニューの内容にかかわらず、「Remote Console Preview」を表示します。
	<b>Power Management:</b> システムケーブルが正しくセットアップされており(p.24「システムケーブルのセットアップ」参照)、電源管理の操作権限(p.44「User Management」)がある場合、このアイコンをクリックするとそのインターフェースを表示し、リモートサーバの電源 ON/OFF、およびリセットを行うことができます。
	<b>Log:</b> IP8000 におけるすべてのイベントはログファイルに記録されます。IP8000 においてログ閲覧の権限(p.44 参照)のあるユーザーがこのアイコンをクリックするとログファイルが画面に表示されます。ログファイルについては第 7 章で詳しく説明します。
	<b>Logout:</b> このアイコンをクリックすると IP8000 からログアウトし、セッションを終了します。セッション終了時のログアウト操作は非常に重要です。適切にログアウトしないと、再ログインするためには IP8000 のタイムアウト設定の期限が切れるまで待たなくてはなりません。(p.46「Timeout」参照)

## 管理メニューアイコン

IP8000 の Web 画面上部に表示されている各アイコンは、IP8000 の管理設定メニューです。設定内容の変更の可否は、各ユーザーに設定された操作権限に依存します。(p.44 参照) IP8000 の管理メニューについては第 4 章で説明します。

## Remote Console Preview

画面のメイン部分には IP8000 が接続しているサーバのデスクトップをキャプチャしたイメージが表示されます。



「Remote Console Preview」の各項目の内容は以下のとおりです。

項目	内容
Refresh	このボタンをクリックすると、ローカルデスクトップのキャプチャイメージを更新します。
Open Java Applet	Java に対応したプラットフォームのコンピュータをお使いの場合、このアイコンをクリックすると、Java アプレットを使用してお使いのコンピュータにローカルサーバのデスクトップ画面を表示します。
Open Windows Client	お使いのコンピュータの OS が Windows の場合、このアイコンをクリックすると、Windows プラグインを使用して、お使いのコンピュータにローカルサーバのデスクトップ画面を表示します。

- 注意:**
1. Java アプレットの操作権限がない場合、Java アプレットのアイコンは表示されません。
  2. Windows クライアントの操作権限がない場合、Windows クライアントのアイコンは表示されません。

Java アプレットを使用した IP8000 の操作方法については第 6 章で、また、Windows クライアントを使用した IP8000 の操作方法については第 5 章でそれぞれ説明しますので、詳細に関してはそちらをご覧ください。

# 第4章 管理メニュー

## はじめに

IP8000 の Web 画面上部に横一列に表示されている管理ユーティリティを使用して IP8000 の操作環境を設定することができます。

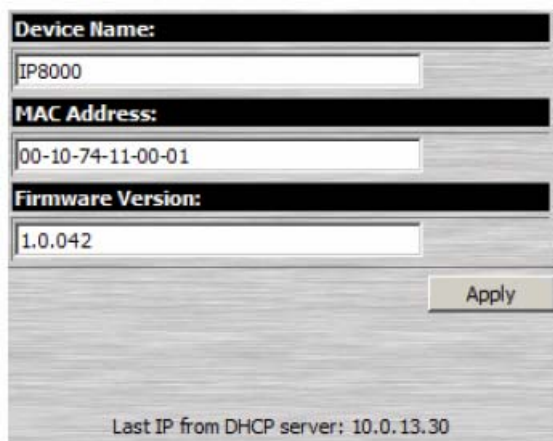


本章では、各アイコンについて順に説明していきます。

- 注意:**
1. 各画面で設定内容を変更した場合は、最後に「Apply」ボタンをクリックして変更内容を適用してください。
  2. 設定内容によっては変更後に IP8000 をリセットする必要がございます。この場合、「Reset on Exit」の項目に自動的にチェックが入ります。(p.46 参照) 変更内容をお使いの環境に反映させる場合は、一度 IP8000 からログアウトし、再度ログインしてください。
  3. IP8000 の設定権限がない場合、設定メニューはご利用いただけません。(p.44 参照)

## General

「General」メニューは、IP8000 管理メニューの一番左側に位置し、IP8000 に関する基本情報を表示します。



The screenshot shows a web-based configuration interface for an IP8000 device. It features three main sections, each with a label and a text input field:

- Device Name:** The input field contains the text "IP8000".
- MAC Address:** The input field contains the text "00-10-74-11-00-01".
- Firmware Version:** The input field contains the text "1.0.042".

Below these fields is an "Apply" button. At the bottom of the interface, there is a status message: "Last IP from DHCP server: 10.0.13.30".

このメニューの各項目の内容は以下のとおりです。

項目	説明
Device Name	複数の IP8000 を導入している場合、システムの管理を容易にするため、個々のユニットに名前を付けることができます。IP8000 に名前を付けるときはこのフィールドに入力してください。(半角英数字最大 16 文字で設定できます。)
MAC Address	IP8000 の MAC アドレスを表示します。
Firmware Version	IP8000 の現在のファームウェアバージョンを表示します。IP8000 の新しいバージョンのファームウェアは弊社 Web サイトからダウンロードしてご利用いただけます。(p.49 参照) 新しいバージョンのファームウェアを入手する場合、このバージョン情報をご確認ください。
Last IP from DHCP Server	IP8000 がセットアップされているネットワーク環境で DHCP をお使いの場合、現在 IP8000 に割り当てられている IP アドレスがこの欄に表示されます。  <b>注意:</b> IP8000 に固定 IP アドレスが設定されている場合、この欄には何も表示されません。

## Network

---

「Network」メニューでは IP8000 のネットワーク環境を設定します。

The screenshot shows a network configuration window with three main sections: Access Ports, IP Address, and DNS Server. Each section has a title bar and a set of controls.

Access Ports	
Program:	9000
Virtual Media:	9003
Http:	80
Https:	443

IP Address	
<input type="radio"/> Obtain an IP address automatically [DHCP]	
<input checked="" type="radio"/> Use the following IP address [Fixed IP]	
IP address:	10.0.100.81
Subnet mask:	255.255.255.0
Default Gateway:	10.0.100.1

DNS Server	
<input type="radio"/> Obtain DNS server address automatically	
<input checked="" type="radio"/> Using the following DNS server address	
Preferred DNS server:	10.0.1.23
Alternate DNS server:	

Apply

## Access Ports

システムにファイアーウォールが導入されている場合、管理者はファイアーウォールの設定で許可されたポート番号を IP8000 側でも設定する必要があります。ユーザーはログインの際に IP アドレスの一部分のポート番号を入力してはなりません。入力するポート番号が正しくないと IP8000 を検索しても表示されません。各項目の内容は以下のとおりです。

項目	説明
Program	キーボード、マウス、ビデオの各信号およびメッセージデータの転送に使用するポート番号を設定してください。有効な値の範囲は 1024～65535、デフォルト値は 9000 です。
Virtual Media	IP8000 のバーチャルメディア機能を使用したデータ転送を行う際に使用されるポート番号です。有効な値の範囲は 1024～65535、デフォルト値は 9003 です。
Http	ブラウザログインの際に使用するポート番号です。有効な値の範囲は 1～65535、デフォルト値は 80 です。
Https	SSL によるブラウザログインの際に使用するポート番号です。有効な値の範囲は 1～65535、デフォルト値は 443 です。

**注意:** これらのポートはそれぞれ固有のポートを割り当て、項目間で値が重複しないように設定してください。

## IP Address

IP8000 はデフォルトで起動時に動的 IP アドレスが割り当てられます (DHCP) が、固定 IP アドレスを指定することも可能です。

- ◆ 動的 IP アドレスを取得するには、「Obtain an IP address automatically」のラジオボタンを選択してください。

---

**注意:** DHCP を使用したネットワーク環境において、IP8000 に割り当てられた IP アドレスを確認する必要がある場合は、p.98 の「IP アドレスの設定」をご参照ください。

---

- ◆ 固定 IP アドレスを使用する場合は「Set IP address manually」のラジオボタンを選択し、使用する IP アドレスを入力してください。

## DNS Server

IP8000 は DNS サーバの自動設定および手動設定が可能です。

- ◆ DNS サーバを自動的に設定する場合は、「Obtain DNS server address automatically」のラジオボタンを選択してください。
- ◆ DNS サーバを手動で設定する場合は、「Use the following DNS server address」のラジオボタンを選択し、IP アドレスを入力してください。

---

**注意:** プライマリ DNS サーバの IP アドレスの設定は必須ですが、代替 DNS サーバの IP アドレスの設定は任意ですので、必要であれば設定を行ってください。

---

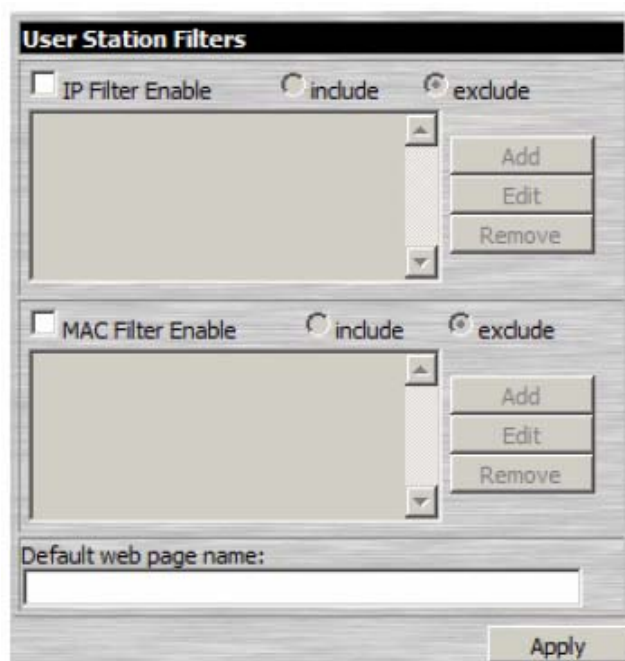
## 変更内容の確定

ネットワークの設定内容を変更したら、ログアウトする前に「Customization」メニュー (p.46 参照) の「Reset on exit」が有効 (チェックが入っている) ことを確認してください。これによって、IP8000 の電源を入れなおすことなくネットワークの設定をデバイスに反映することができます。

## Security

---

「Security」メニューでは、外部から IP8000 に対するアクセスを管理します。



### 概要

- ◆ ここで指定された IP アドレスおよび MAC アドレスの設定に基づいて、IP8000 へのアクセスを許可または禁止します。フィルター項目が設定されている場合は、これらのリストボックスに設定内容が表示されます。
- ◆ 「Default web page name」の項目では、Java クライアントから IP8000 にアクセスする際に、ユーザーが接続するページ名の設定を行います。

設定例) 192.168.0.126/abcdefg

ユーザーはブラウザで IP8000 にアクセスする際には、URL バーで IP8000 の IP アドレスの後にスラッシュを続けて、この項目で設定された文字列を入力する必要があります。セキュリティ上の観点からも、定期的にこのページ名を変更することをお勧めします。

---

**注意:** この項目に何も設定されていないと、IP8000 の IP アドレスをブラウザの URL バーに入力するだけで誰でも簡単にアクセスできてしまい、お使いのシステムが危険な状態にさらされますので、ご注意ください。

---

## フィルタリング機能

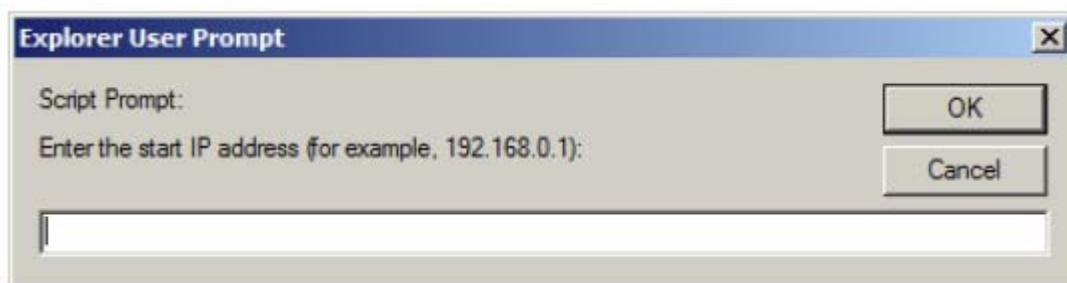
IP アドレスによるフィルタリングを有効にする場合は「IP Filter Enable」の項目を、また、MAC アドレスによるフィルタリングを有効にする場合は、「MAC Filter Enable」の項目をそれぞれ有効にしてください。IP アドレス、MAC アドレスは、それぞれ最大 100 項目のフィルター設定が可能です。

- ◆ 「include」ラジオボタンが選択されている場合は、指定のアドレスもしくは指定範囲内のアドレスによる IP8000 へのアクセスを許可します。それ以外のアドレスからのアクセスはすべて拒否されます。
- ◆ 「exclude」ボタンが選択されている場合は、指定のアドレスもしくは指定範囲内のアドレスによる IP8000 へのアクセスを拒否します。それ以外のアドレスからのアクセスはすべて許可されます。

### IP アドレスによるフィルタリング

IP アドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

1. 「Add」ボタンをクリックしてください。以下のようなダイアログが表示されます。



2. フィルタリングの対象となる IP アドレスを入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。以下のようなダイアログが表示されます。



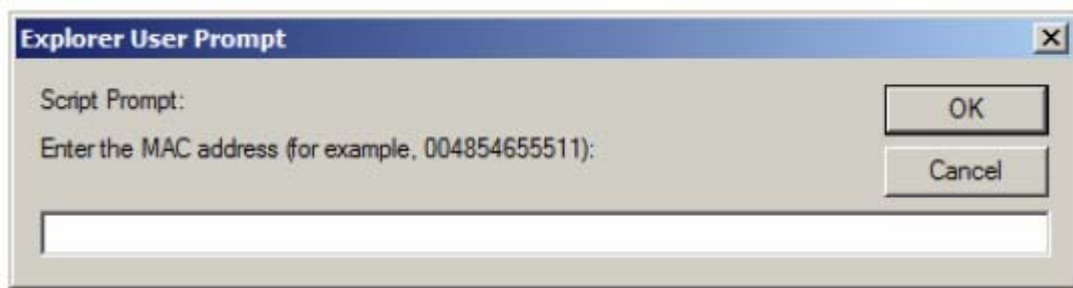
3. IP アドレスを1 つだけ設定する場合は、始点となる IP アドレス (the start IP address) と終点となる IP アドレス (the end IP address) に同じ内容を入力してください。複数の IP アドレスの範囲を指定する場合は、その範囲の始点となる IP アドレスおよび終点となる IP アドレスを設定してください。
4. IP アドレスの入力が完了したら、「OK」ボタンをクリックしてください。
5. 他にもフィルター項目がある場合は、手順 1～4 の操作を繰り返して設定してください。

フィルター項目を削除する場合は、リストから対象となる項目を選択し、「Remove」ボタンを押してください。また、フィルター項目の内容を変更する場合は、同様にリストから項目を選択した後に「Edit」ボタンを押してください。編集用のダイアログボックスは、追加用のダイアログボックスと同じように入力フィールドを設けておりますので、フィールドを新しい設定内容に修正した後に「OK」ボタンを押してください。

## MAC アドレスによるフィルタリング

MAC アドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

1. 「Add」ボタンをクリックしてください。以下のようなダイアログが表示されます。



2. フィルタリングの対象となる MAC アドレスを入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。
3. 他にもフィルター項目がある場合は、手順 1～2 の操作を繰り返して設定してください。

フィルター項目を削除する場合は、リストから対象となる項目を選択し、「Remove」ボタンを押してください。

また、フィルター項目の内容を変更する場合は、同様にリストから項目を選択した後に「Edit」ボタンを押してください。編集用のダイアログボックスは、追加用のダイアログボックスと同じように入力フィールドを設けておりますので、フィールドを新しい設定内容に修正した後に「OK」ボタンを押してください。

## ANMS

---

ANMS (Advanced Network Management Settings)メニューでは外部システムからのログイン認証および権限管理に関するセットアップを行います。この画面は下図のとおり、主に3つのメニューから構成されています。

The screenshot displays the ANMS configuration window with three main sections:

- Radius Settings:** Includes an 'Enable' checkbox, 'Primary RADIUS Server IP', 'Primary RADIUS Service Port' (1812), 'Alternate RADIUS Server IP', 'Alternate RADIUS Service Port' (1812), 'Timeout (seconds)' (5), 'Retries' (3), and 'Shared Secret (at least 6 characters)'.
- CC Management Settings:** Includes an 'Enable' checkbox, 'CC Server IP', and 'CC Service Port' (0).
- Log Server Settings:** Includes 'MAC address' (000000000000) and 'Service Port' (9001).

An 'Apply' button is located at the bottom right of the window.

### RADIUS Settings

IP8000 の認証および権限設定を RADIUS サーバ経由で行う場合、以下の手順で設定を行ってください。

1. 「**Enable**」の項目にチェックを入れてください。
2. 「Primary RADIUS Server IP」、「Primary RADIUS Server Port」、「Alternate RADIUS Server IP」、および「Alternate RADIUS Server Port」の各項目に、プライマリ RADIUS サーバおよび代替 RADIUS サーバの IP アドレスとポート番号をそれぞれ設定してください。
3. 「Timeout」フィールドに、IP8000 における RADIUS サーバからの応答待機時間(秒)を入力してください。

4. 「Retries」フィールドに、RADIUS 認証の再試行可能回数を入力してください。
5. 「Shared Secret」フィールドに IP8000 と RADIUS サーバ間の認証で使用する共有シークレットの文字列を入力します。
6. RADIUS サーバ側で IP8000 操作権限に関するパラメータを設定する場合は、以下の表を参考にしてください。

パラメータ	内容
C	ユーザーにアドミニストレーター権限を与えます。ユーザーは IP8000 のシステム設定を行うことができます。
W	ユーザーに IP8000 の Windows クライアントの使用を許可します。
J	ユーザーに IP8000 の Java アプレットの使用を許可します。
P	ユーザーに IP8000 が接続しているコンピュータの電源 ON/OFF 操作およびリセットを許可します。
L	ユーザーに Web ブラウザ上での IP8000 のアクセスログ情報の閲覧を許可します。
V	ユーザーに表示画面の参照のみを許可します。
S	ユーザーにバーチャルメディア機能の使用を許可します。

- 注意:**
1. 入力したパラメータの大文字・小文字は区別されませんので、どちらで入力していただいても結構です。
  2. 複数のパラメータを指定する場合にはコンマ「 , 」で区切ってください。
  3. 権限パラメータに無効な文字を入力すると、そのユーザーは IP8000 にログインできなくなりますので、入力した内容に誤りがないか今一度ご確認ください。

## パラメータ入力例

RADIUS サーバのアクセス権の設定例は以下の表のとおりです。

パラメータ	内容
c,w,p	ユーザーには アドミニストレーター権限/Windows クライアントの使用権限/IP8000 がセットアップされたコンピュータの電源管理操作権限が与えられます。
w,j,l	ユーザーには Windows クライアントの使用権限/Java クライアントの使用権限/ブラウザを使用したログ閲覧権限が与えられます。

## CC Management Settings

IP8000 の認証を CC サーバ経由で行う場合は、このセクションにある「Enabled」の項目にチェックを入れて、「CC Server IP」および「Port」の項目に必要な事項を入力してください。

## Log Server Settings

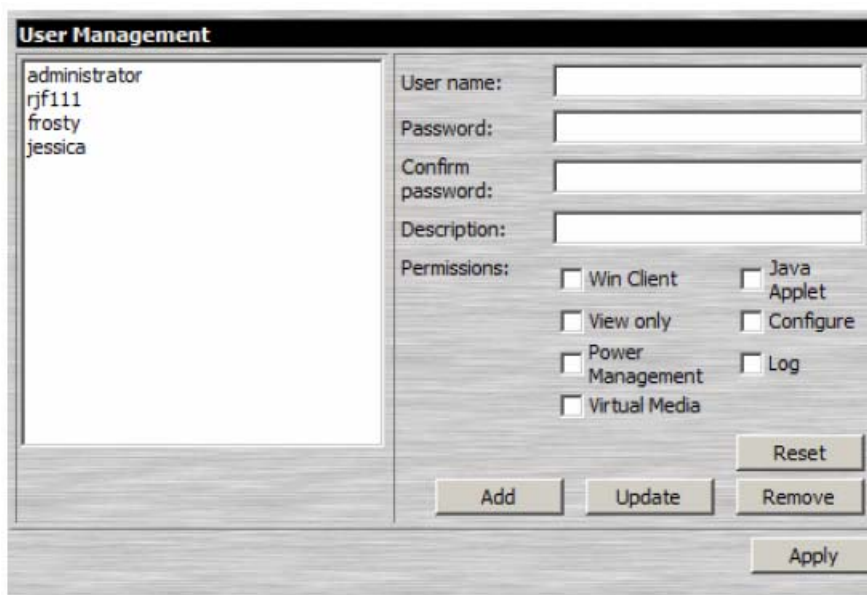
ログイン情報や内部ステータスメッセージなど、IP8000 の重要なイベントは自動的にログファイルに記録されます。ログサーバの詳細は第 8 章「ログサーバ」をご参照ください。

- ◆ 「MAC Address」の項目に、IP8000 のログサーバがセットアップされているコンピュータの MAC アドレスを入力してください。
- ◆ 「Server Port」の項目に、IP8000 のログサーバがリッスンしているポートを入力してください。有効な値の範囲は 1～65535、デフォルトポート番号は 9001 です。

## User Management

---

「User Management」メニューではユーザーの作成および管理を行います。IP8000では最大64ユーザーのアカウントを作成できます。



- ◆ ユーザーを新規作成する場合は、右側に表示されている必要事項を入力し、「Add」ボタンをクリックしてください。新規に作成されたユーザーが左側のリストに表示されます。
- ◆ ユーザー情報を削除する場合は、左側のリストから削除対象となるユーザーを選択し、「Remove」ボタンをクリックしてください。そのユーザーが左側のリストから削除されます。
- ◆ ユーザー情報を修正する場合は、対象となるユーザーをリストから選択し、右側の入力欄で内容を変更してください。

---

**注意:** ユーザー情報を修正する場合、対象となるユーザーを選択しても、右側の入力欄の「Password」および「Confirm password」の項目は表示されません。ユーザーのパスワードを変更しない場合は、これらの欄をそのままにしておいてください。パスワードを変更する場合は、新しいパスワードをこれらの欄に入力してください。

---

変更内容の入力が終わったら、「Update」ボタンをクリックしてください。

- ◆ 「Reset」ボタンを押すと、右側の入力欄に表示されている内容を消去します。

この画面における各項目の内容は以下のとおりです。

項目	説明
Username	半角英数字 6～16 文字で設定してください。
Password	半角英数字 6～16 文字で設定してください。
Confirm password	「Password」で設定された内容の再確認を行います。この欄にも「Password」の欄に入力した内容と同じものを入力してください。
Description	ユーザーに関する追加情報があれば、この欄に入力してください。
Permissions	<p>IP8000 に対する操作権限の有無を設定します。該当ユーザーによる操作を許可する場合はその項目にチェックを入れ、禁止する場合はその項目からチェックをはずしてください。</p> <p><b>Win Client:</b> この項目にチェックを入れると、そのユーザーが Windows クライアント経由で IP8000 にアクセスできるようになります。</p> <p><b>View Only:</b> この項目にチェックを入れると、そのユーザーが IP8000 に接続された KVM スイッチまたはサーバの画面を参照することはできませんが、実際に操作することはできません。</p> <p><b>Power Management:</b> この項目にチェックを入れると IP8000 がセットアップされているコンピュータの電源 ON/OFF/リセットができるようになります。</p> <p><b>Log:</b> この項目にチェックを入れると、そのユーザーは IP8000 のイベントログを参照することができるようになります。</p> <p><b>Virtual Media:</b> この項目にチェックを入れると、IP8000 のバーチャルメディア機能を利用することができるようになります。(詳細に関しては p.57「Virtual Media」を参照)</p> <p><b>Java Applet:</b> この項目にチェックを入れると、そのユーザーが Java アプレット経由で IP8000 にアクセスできるようになります。</p> <p><b>Configure:</b> この項目にチェックを入れると、そのユーザーに管理者権限が付与され、IP8000 の操作環境のセットアップおよび設定内容の変更ができるようになります。</p>

## Customization

「Customization」メニューでは、タイムアウトまでの時間や、ログイン再試行回数、操作モード等のパラメータを管理者によって設定することができます。

The screenshot shows a configuration window with the following sections:

- Timeout Control**: Time out: 0 minutes
- Login Failures**: Allowed: 5, Timeout: 3 minutes
- Working Mode**:
  - Enable ICMP
  - Enable device list
  - Enable browser
  - Enable multuser
- Mouse Sync Mode**:
  - Automatic
  - Manual
- Reset**:
  - Reset on exit

An **Apply** button is located at the bottom right.

このページにおける各項目の内容は以下のとおりです。

項目	説明	
Timeout	ここで設定された時間(分)、WindowsクライアントやJavaアプレットからIP8000に対して入力がない場合、そのセッションを終了します。	
Login Failures	Allowed	リモートコンピュータからのログイン連続試行可能回数を設定します。
	Timeout	ログイン操作の回数が、この連続試行可能回数を超えた場合、再ログインまで待機しなければならない時間を設定します。

(表は次のページに続きます)

項目		説明
Working mode	Enable ICMP	この項目が有効になっていると、IP8000 は自身に発行された ping コマンドに対して応答します。この項目が無効になっていると、外部から自身に対する ping には応答しません。
	Enable device list	この項目が有効になっていると、アプリケーション版 Windows クライアントの接続画面にこの IP8000 の情報が表示されるようになります。(p.84「Windows クライアント接続画面」参照) この項目が無効になっていると、この IP8000 は Windows クライアントの接続画面には表示されません。
	Enable browser	この項目が有効になっていると、ユーザーはブラウザによって IP8000 を操作できるようになります。この機能が無効になっていると、ユーザーは Web ブラウザで IP8000 にログインできなくなります。
	Enable multiuser	この項目を有効にすると、複数ユーザーによる IP8000 への同時ログインが可能になります。(最大 32 ユーザーまで対応) 接続方法は、ブラウザ版およびアプリケーション版の各 Windows クライアント・Java クライアントであれば、どのような組み合わせでもかまいません。
Mouse Sync Mode	Automatic	デフォルトではこの項目が選択されています。この項目が選択されていると、リモートとローカルのマウスポインタを自動的に同期します。  <b>注意:</b> この機能は Windows 対応の USB マウスに限りご利用いただけます。これ以外の環境でお使いの場合は、「Manual」の項目を選択してください。
	Manual	この項目を選択した場合、リモートとローカルのマウスポインタの自動同期を行いません。マウスを同期する場合は Windows クライアントまたは Java アプレットを用いて手動で設定する必要があります。詳細については p.56、p.67 または p.54 をご参照ください。  これ以外の同期方法については、p.105 をご参照ください。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Reset	<p>「Network」メニューにおける設定変更、ログサーバ用のポートの変更、ブラウザアクセスの許可/禁止、およびファームウェアのアップグレードといった IP8000 に対する設定更新は、デバイスのリセット後に有効になります。これらの変更を行った場合は、「Reset on Exit」の項目に自動的にチェックが入ります。</p> <p>IP8000 をリセットし、変更内容を適用する場合は、一度ログアウトし、30～60 秒ほど待機してから再ログインしてください。</p> <p><b>注意:</b> IP8000 のパフォーマンスが低下した場合は、「Reset on Exit」の項目に手動でチェックを入れて、一度ログアウトしてからログインしなおしてください。</p>

## Firmware

---

IP8000 のファームウェアの最新版がリリースされると、弊社 Web サイトからダウンロードできるようになります。このダウンロードサイトに定期的にアクセスしていただき、ファームウェアの最新版をお使いの IP8000 に適用してください。

ファームウェアをアップグレードする場合は、以下の手順で操作してください。

1. IP8000 がセットアップされていないコンピュータから弊社ダウンロードサイトにアクセスし、ファームウェアのファイル(通常は最新版)をダウンロードしてください。
2. 手順 1 で使用したコンピュータで、ブラウザを使って IP8000 にアクセスし、「Firmware」アイコンをクリックしてください。以下のような画面が表示されます。



3. 「Browse」ボタンをクリックし、新しくダウンロードしたパッケージをファイルの選択ダイアログから選択してください。
4. 「Upload」ボタンをクリックしてください。
5. IP8000 にファームウェアパッケージのアップロードが完了すると、「Reset on exit」(p.46 「Customization」参照)に自動的にチェックが入ります。新しいパッケージを適用する場合は、メイン画面左下にある「Logout」ボタンをクリックし、IP8000 をリセットした後、再ログインしてください。

# 第5章

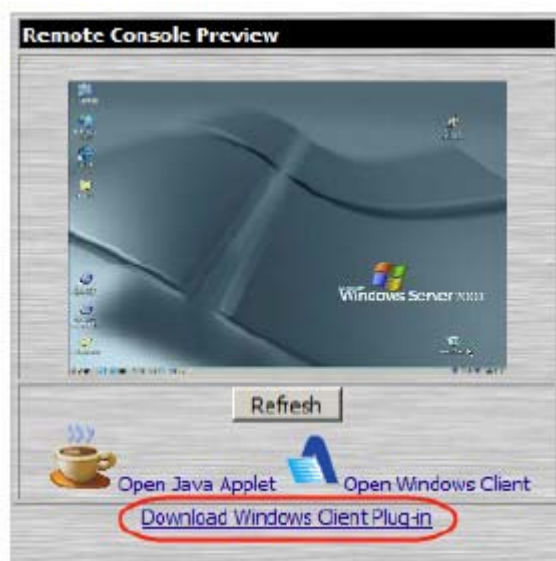
## Windows クライアント

### はじめに

---

IP8000 にログイン (p.27 参照)したら、「Remote Console Preview」画面の「Open Windows Client」リンクをクリックしてください。

- 注意:**
1. Windows クライアントの初回起動時には、実行環境に必要となるプラグイン (ip8000plugin.exe) のインストールを促されます。



リンクをクリックすると、ダイアログが表示されますので、「Run」ボタンをクリックしてください。

ダイアログボックスに「Run」オプションがない場合は、「Save」ボタンをクリックし、ブラウザを開いたままにしてファイルを実行してください。

ファイルを実行すると、プラグインのインストールウィザードが表示されます。インストールを開始する場合は「Next」ボタンをクリックし、ウィザード内の指示に従ってインストールを進めてください。

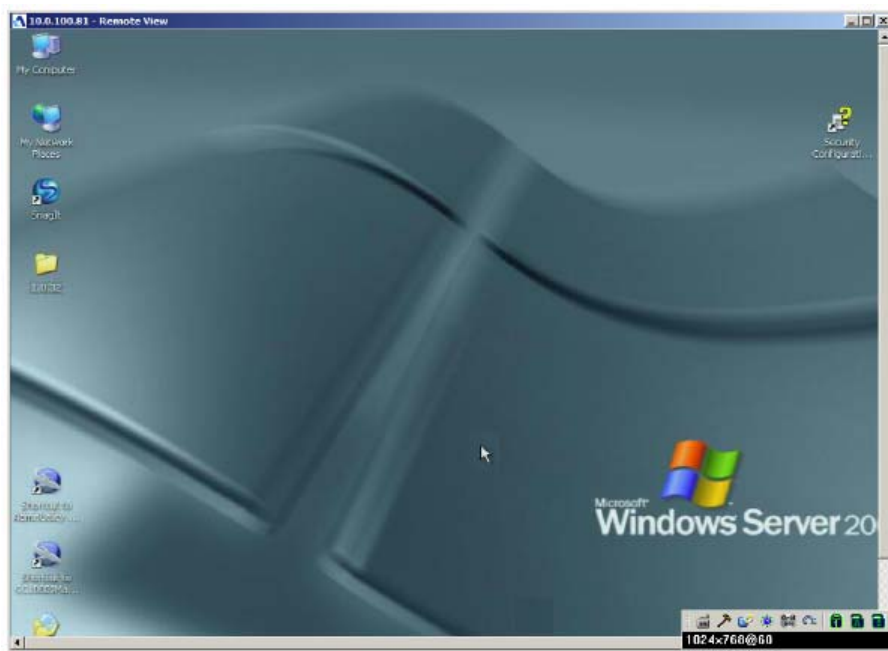
インストールが完了したら、ログイン画面に戻り、「Open Windows Client」リンクをもう一度クリックしてください。

---

(次のページに続きます)

- 
- 注意:** 2. プラグインをアンインストールする場合は、「プログラムの追加と削除」([スタート]→[コントロールパネル]→[プログラムの追加と削除])から行ってください。
- 

「Open Windows Client」リンクをクリックすると、1～2 秒後にローカルサーバのデスクトップがお使いのデスクトップ上に表示されます。



## ローカルデスクトップの操作方法

---

お使いのモニタに表示されたローカルサーバのデスクトップは、通常の Windows アプリケーションと同様の操作方法でご利用いただけます。

- 
- 注意:**
1. 「Remote View」の画面は、一般的な Windows アプリケーションと同様に、ウィンドウの最大化やリサイズ、また、スクロールバーの使用が可能です。
  2. お使いの環境によっては、ネットワークの遅延が原因で、入力したキーやマウス操作の表示に若干時間がかかる場合がございますので、そのような場合は操作してから表示されるまでしばらくお待ちください。
  3. ネットワークの遅延またはローカルコンピュータの電源不足によって、表示画質(特に動画の表示画質)が劣化する場合がございます。
-

## Windows クライアントコントロールパネル




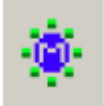
画面の右下に表示されている Windows クライアントコントロールパネルでは、リモート KVM 操作に使用するメニューをユーザーに提供しています。



パネルは、上部のアイコンバーと下部のテキストバーから構成されています。下部のテキストバーにはローカルサーバのビデオ解像度が表示されます。

**注意:** この Windows クライアントコントロールパネルは、枠をドラッグすることでウインドウ内の任意の位置に移動させることができます。

Windows クライアントコントロールパネルの各アイコンの機能は以下のとおりです。

アイコン	機能
	「Hotkey Setup」ダイアログを表示します。 (詳細は p.54「Hotkey Setup」参照)
	「Video Settings」ダイアログを表示します。
	「Virtual Media」ダイアログを表示します。
	メッセージボードを起動します。

(表は次のページに続きます)

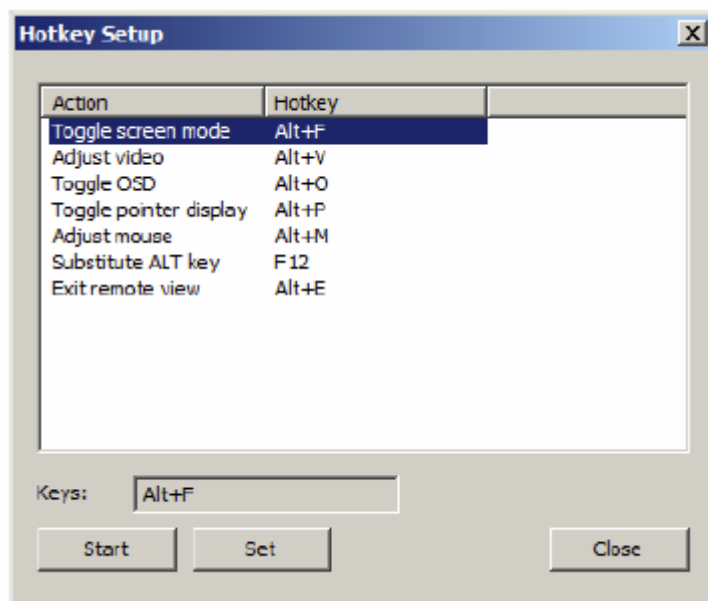
アイコン	機能
	<p>ローカルシステムに[Ctrl] + [Alt] + [Del]の信号を送ります。</p>
	<p>リモートビューを終了します。</p>
	<p>ローカルコンピュータの[Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock]各キーの状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ キーが有効になっていると、そのキーの LED が明るいグリーンに点灯し、錠前が閉じたアイコンが表示されます。</li> <li>◆ キーが無効になっていると、そのキーの LED は暗いグリーンに点灯し、錠前が開いたアイコンが表示されます。</li> </ul> <p>ロックキーを有効または無効にする場合は、該当するアイコンをクリックして表示を切り替えてください。</p> <p><b>注意:</b> IP8000 への初期接続時には、インジケータの表示が正しくない可能性があります。ローカルの状態と同期させるために、一度インジケータをクリックして再設定してください。</p>

Windows クライアントコントロールパネルの各アイコンとその機能については以下のセクションで説明していきます。



## Hotkey Setup

ローカルサーバにおける様々な操作はホットキーを使用して行うことができます。Windows コントロールパネルの一番左にあるキーボードアイコンをクリックすると、「Hotkey Setup」ダイアログが表示されます。ホットキーによって実現可能な機能の一覧は、ダイアログ中央のリストの左側の欄に表示され、その機能に割り当てられているホットキーの内容が右側の欄に表示されます。



機能	説明
Toggle screen mode	画面表示をフルスクリーンまたはウィンドウサイズに切り替えます。
Adjust video	「Video Settings」ダイアログを起動します。
Toggle OSD	コントロールパネルを表示/非表示に切り替えます。
Toggle pointer display	ローカル、リモートの 2 つのマウスポインタが表示されて操作しづらい場合は、この機能を使用してマウスポインタを最小化することができます。この機能はトグル式になっておりますので、マウスポインタを元の状態に戻す場合は同じホットキーを再度入力してください。
Adjust mouse	ローカルとリモートのマウスを同期します。

(表は次のページに続きます)

機能	説明
Substitute ALT key	<p>IP8000 との接続中は、[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Delete]を除いたすべてのキーボード入力が IP8000 側に送られます。ローカルシステムに対して[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の機能を実行したい場合には、任意のファンクションキーを[Alt]キーの代わりに設定することができます。</p> <p>例えば、[Alt]キーの代わりに[F12]を使用すると、[F12] + [Tab]、[Ctrl] + [F12] + [Delete]で上記の操作が行えます。</p>
Exit remote view	<p>IP8000 へのリモート接続を終了し、現在使用しているコンピュータの操作に戻ります。</p>

## ホットキーの設定

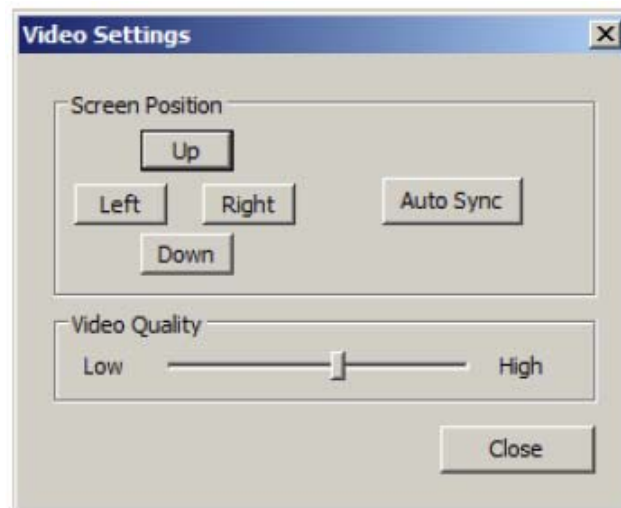
デフォルトのホットキーの設定でお使いの環境に不都合が生じる場合は、以下の手順で別のキーの組み合わせに変更することができます。

1. 変更対象となるホットキーをリストから選択し、「**Start**」ボタンをクリックしてください。
2. 新しいホットキーとして設定したいキーを入力してください。入力されたキーが「Keys」の欄に表示されます。
3. 「**Set**」ボタンをクリックしてください。
4. 「**Close**」ボタンをクリックしてください。



## Video Settings

「Video Settings」ダイアログでは、ローカル画面の表示位置および画質の調整を行います。



このダイアログにおける各項目の詳細は以下のとおりです。

項目	機能
Screen Position	方向ボタンをクリックすることでローカルコンピュータのウィンドウの水平位置および垂直位置を調整します。
Auto Sync	このボタンをクリックすると、ローカル画面の垂直方向および水平方向のオフセット値を検出し、リモート画面で自動同期を取ります。 ローカルとリモートの間でマウスが同期を失った場合、このボタンを押すことで同期することができます。  <b>注意:</b> この機能は画面が明るいときに効果を発揮します。  自動同期の結果に満足されない場合は、「Screen Position」パネルにある方向ボタンを使って手動で設定しなおしてください。
Video Quality	スライダーを使ってビデオの画質を調節してください。値がより大きければ画質はより向上しますが、それだけ多くのビデオデータが転送されることとなります。お使いのネットワークの帯域に依存しますので、高い値に設定するとレスポンス時間が遅くなる可能性があります。

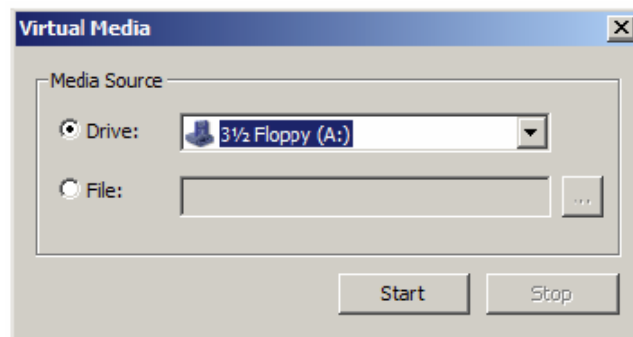


## Virtual Media

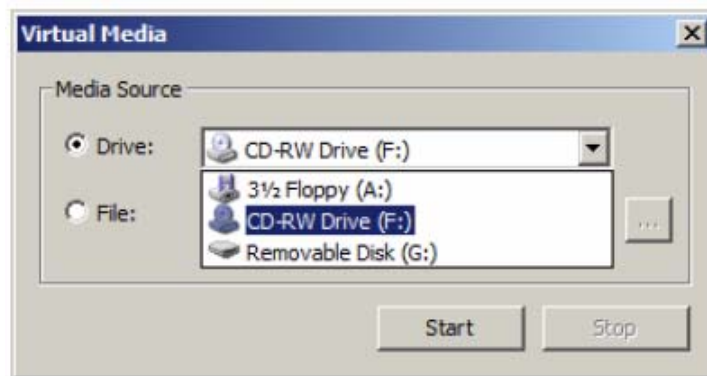
IP8000 のバーチャルメディア機能は、リモートユーザー側のシステムにある USB 2.0 に対応したデバイス (フロッピードライブ、CD-ROM ドライブ、USB フラッシュメモリ等) またはイメージファイルを、あたかもローカルサーバ側のメディアであるかのように使用できる機能です。

この機能を利用する場合は、以下の手順で操作を行ってください。

1. このアイコンをクリックして「Virtual Media」ダイアログを起動してください。

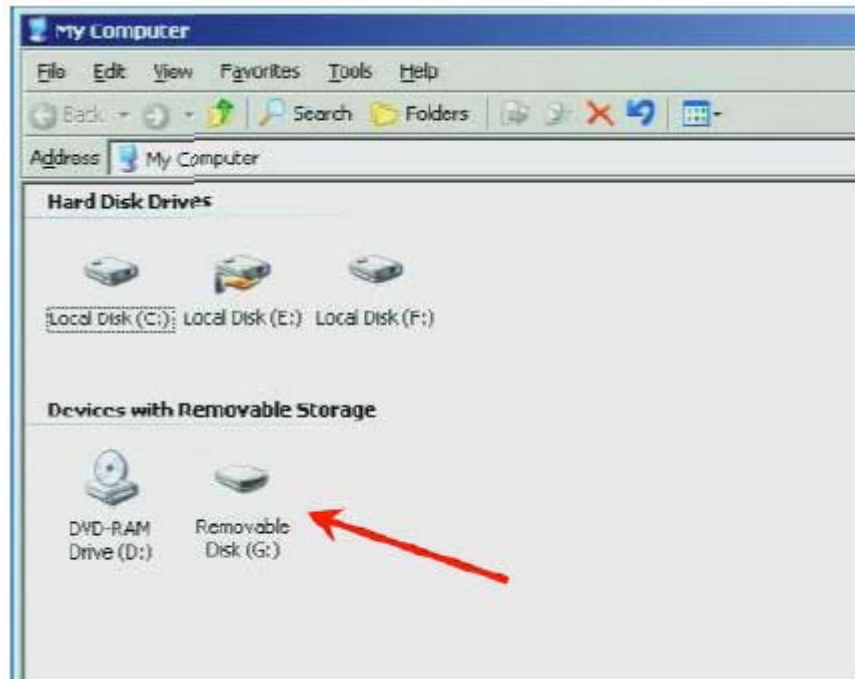


2. メディアをダイアログから選択してください。
  - a) 「Drive」を選択した場合は、リストからローカル側のメディアとして操作したいドライブを選択してください。



- b) 「File」を選択した場合は、「...」ボタンをクリックして「ファイルの選択」ダイアログから対象となるファイルを選択してください。

- メディアを選択したら、「Start」ボタンをクリックしてください。手順 2 で選択したデバイスまたはイメージファイルがローカルコンピュータ側にリダイレクトされ、以下のように表示されます。



---

**注意:**           メディアがローカル側で認識されると、「Virtual Media」ダイアログで「Stop」ボタンを押さない限り、この機能は有効になっています。

---

バーチャルメディア機能が有効になると、このフォルダはあたかもローカルサーバ上にあるかのようにファイルのドラッグ、ドロップのみならずファイルの開閉や編集といった操作が可能になります。

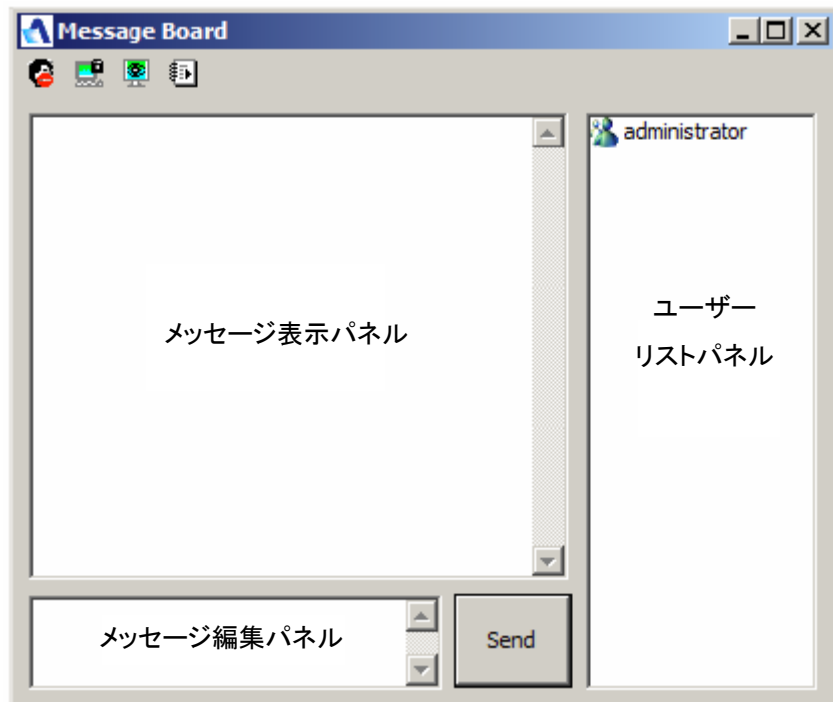
ローカルサーバ上にリダイレクトされているドライブに保存またはドラッグされたファイルは、実際にはお使いのリモートシステムの USB デバイスに格納されます。

- リダイレクションを終了する場合は、「Virtual Media」ダイアログを表示して「Stop」ボタンをクリックしてください。







## Message Board

IP8000 はマルチユーザーログインに対応しておりますが、複数ユーザーによる操作の競合を避けるために、インターネットチャットプログラムのようなメッセージボード機能を提供しております。この機能を使うことによって、現在 IP8000 にログインしているユーザー同士でコミュニケーションをとることができます。



## ボタンバー

ボタンバーにあるボタンはトグルボタンです。各ボタンの機能は以下のとおりです。

ボタン	機能
	チャット機能を有効/無効にします。チャット機能が無効になっている場合、メッセージボードにメッセージが送信されても表示されません。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがチャット機能を無効にしていることを表しています。
	キーボード・モニタ・マウス(KVM)を専有/開放します。KVMがあるユーザーによって専有されている場合、他のユーザーは画面の参照およびキーボード・マウスの操作ができなくなります。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがKVMを専有していることを表しています。
	キーボード・マウスを専有/開放します。キーボード・マウスがあるユーザーによって専有されている場合、他のユーザーは画面の参照は可能ですが、キーボード・マウスの操作ができなくなります。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがキーボード・マウスを専有していることを表しています。
	ユーザーリストの表示/非表示を切り替えます。ユーザーリストを非表示にすると、ユーザーリストパネルを閉じます。

## メッセージ編集パネル

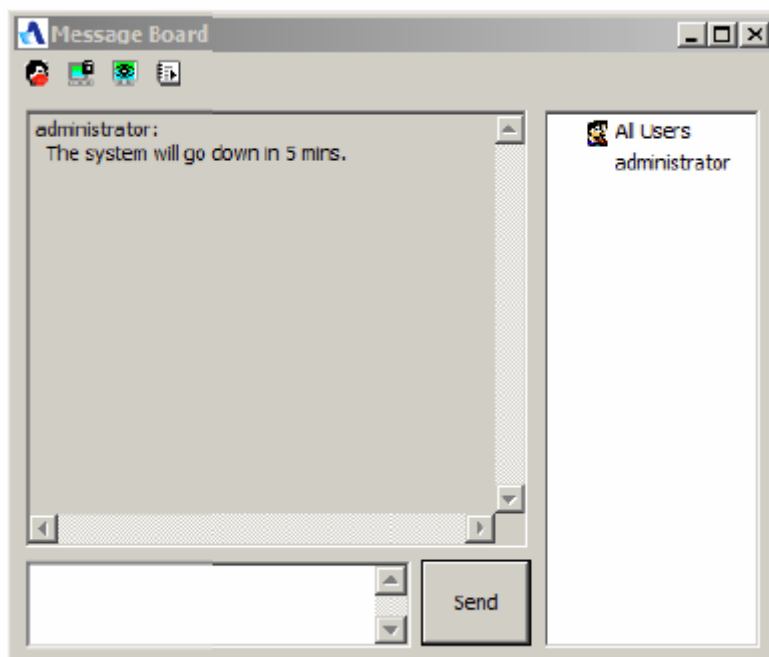
メッセージを送信したい場合は、このメッセージ編集パネルに内容を入力して、「Send」ボタンをクリックするか、[Enter]キーを押してください。

## メッセージ表示パネル

ユーザーがメッセージボードに書き込んだメッセージはシステムメッセージと同様、メッセージ表示パネルに出力されますが、チャット機能を無効にしている場合はボードにメッセージが書き込まれても表示されません。

## ユーザーリストパネル

- ◆ ログインしている全てのユーザーはユーザーリストパネルに表示されます。メッセージの宛先となるユーザーをこのリストから選択してメッセージを送信してください。
- ◆ ユーザーがチャット機能を無効にしていると、そのユーザーの前にアイコンが表示されません。
- ◆ ユーザーがキーボード・モニタ・マウス、またはキーボード・マウスを専有していると、そのユーザーの前にアイコンが表示されます。



# 第6章

## Java アプレット

### はじめに

Java Runtime Environment (JRE) 6 Update 3 以降 がインストールされたプラットフォームであればどんなコンピュータからでも Java アプレットを使って IP8000 にアクセスすることができます。JRE は Java の Web サイト(<http://java.com>)から無料でダウンロードしてお使いいただけます。

Java アプレットを起動する場合は、ログイン(p.27 参照)したあとで、Web 画面の「Open Java Applet」リンクをクリックしてください。

**注意:** 「セキュリティの警告」ダイアログが表示された場合は、警告を受け入れず、プログラムを実行してください。

1～2 秒経過すると、リモートサーバのデスクトップ画面がウィンドウとしてお使いのモニタに表示されます。



## ローカルデスクトップの操作方法

---

お使いのモニタに表示されている画面で、ローカルシステムのデスクトップをあたかも現場で作業しているかのようにリモート操作することができます。

- ◆ この画面は、通常のアプリケーションと同様に、ウィンドウの最小化や、ウィンドウ枠のドラッグによるリサイズ、また、スクロールバーによるウィンドウ内の表示位置の変更が可能です。
- ◆ ローカルとリモートプログラムを切り替える場合は、[Alt] + [Tab]キーで画面を切り替えてください。

- 
- 注意:**
1. お使いの環境によっては、ネットワークの遅延が原因で、入力したキーやマウス操作の表示に若干時間がかかる場合がございますので、そのような場合は操作してから表示されるまでしばらくお待ちください。
  2. ネットワークの遅延またはローカルコンピュータの電源不足によって、表示画質(特に動画の表示画質)が劣化する場合がございます。
- 

## Java アプレットコントロールパネル

---

画面の右下に表示されている Java アプレットコントロールパネルでは、ローカル KVM 操作に必要なメニューをユーザーに提供しています。



パネルは、上部のアイコンバーと下部のテキストバーから構成されています。下部のテキストバーにはローカルサーバのビデオ解像度が表示されます。

- 
- 注意:** この Java クライアントコントロールパネルは、枠をドラッグすることでウィンドウ内の任意の位置に移動させることができます。
-

Java クライアントコントロールパネルの各アイコンの機能は以下のとおりです。

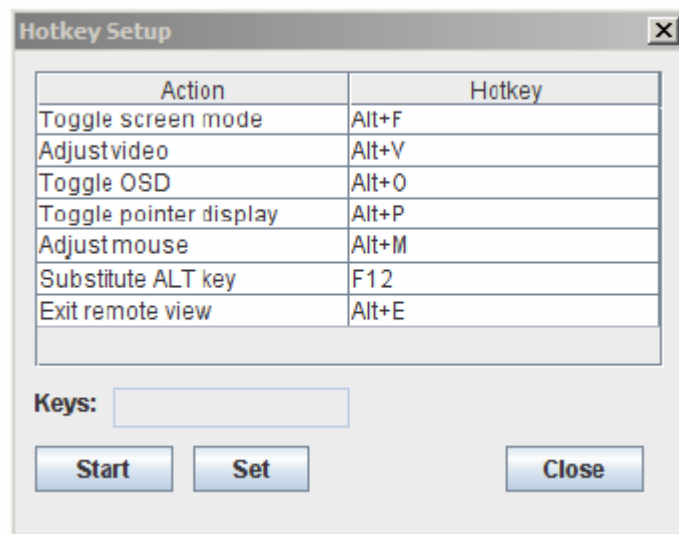
アイコン	機能
	<p>「Hotkey Setup」ダイアログを表示します。 (詳細は p.65「Hotkey Setup」参照)</p>
	<p>「Video Settings」ダイアログを表示します。</p>
	<p>メッセージボードを起動します。(p.68 参照)</p>
	<p>リモートシステムに[Ctrl] + [Alt] + [Del]の信号を送ります。</p>
	<p>リモートビューを終了します。</p>
	<p>リモートコンピュータの[Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock]各キーの状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ キーが有効になっていると、そのキーの LED が明るいグリーンに点灯し、錠前が閉じたアイコンが表示されます。</li> <li>◆ キーが無効になっていると、そのキーの LED は暗いグリーンに点灯し、錠前が開いたアイコンが表示されます。</li> </ul> <p>ロックキーを有効または無効にする場合は、該当するアイコンをクリックして表示を切り替えてください。</p> <p><b>注意:</b>IP8000 への初期接続時には、インジケータの表示が正しくない可能性があります。ローカルの状態と同期させるために、一度インジケータをクリックして再設定してください。</p>

Java クライアントコントロールパネルの各アイコンとその機能については以下のセクションで説明していきます。



## Hotkey Setup

ローカルサーバの様々な操作はホットキーを使用して行うことができます。Java アプレットコントロールパネルの一番左にあるキーアイコンをクリックすると、「Hotkey Setup」ダイアログが表示されます。ホットキーによって実現可能な機能の一覧は、ダイアログ中央のリストの左側の欄に表示され、その機能に割り当てられているホットキーの内容が右側の欄に表示されます。



機能	説明
Toggle screen mode	画面表示をフルスクリーンまたはウィンドウモードに切り替えます。
Adjust video	「Video Settings」ダイアログを起動します。
Toggle OSD	コントロールパネルを表示/非表示に切り替えます。
Toggle pointer display	ローカル、リモートの 2 つのマウスポインタが表示されて操作しづらい場合は、この機能を使用してマウスポインタを最小化することができます。この機能はトグル式になっておりますので、マウスポインタを元の状態に戻す場合は同じホットキーを再度入力してください。
Adjust mouse	ローカルとリモートのマウスを同期します。

(表は次のページに続きます)

機能	説明
Substitute ALT key	<p>IP8000 との接続中は、[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Delete]を除いたすべてのキーボード入力が IP8000 側に送られます。ローカルシステムに対して[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の機能を実行したい場合には、任意のファンクションキーを[Alt]キーの代わりに設定できます。</p> <p>例えば、[Alt]キーの代わりに[F12]を使用すると、[F12] + [Tab]、[Ctrl] + [F12] + [Delete]で上記の操作が行えます。</p>
Exit remote view	<p>IP8000 へのリモート接続を終了し、現在使用しているコンピュータの操作に戻ります。</p>

## ホットキーの設定

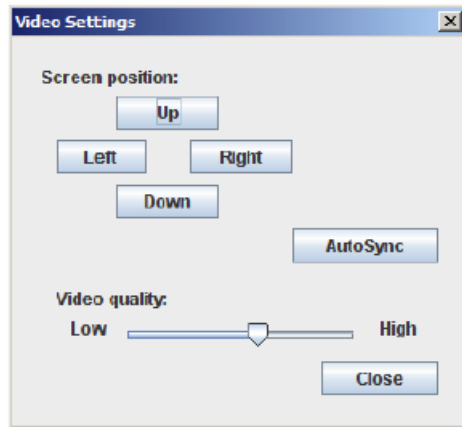
デフォルトのホットキーの設定でお使いの環境に不都合が生じる場合は、以下の手順で別のキーの組み合わせに変更することができます。

1. 変更対象となるホットキーをリストから選択し、「**Start**」ボタンをクリックしてください。
2. 新しいホットキーとして設定したいキーを入力してください。入力されたキーが「Keys」の欄に表示されます。
3. 「**Set**」ボタンをクリックしてください。
4. 「**Close**」ボタンをクリックしてください。



## Video Settings

「Video Settings」ダイアログでは、リモート画面の表示位置および画質の調整を行います。



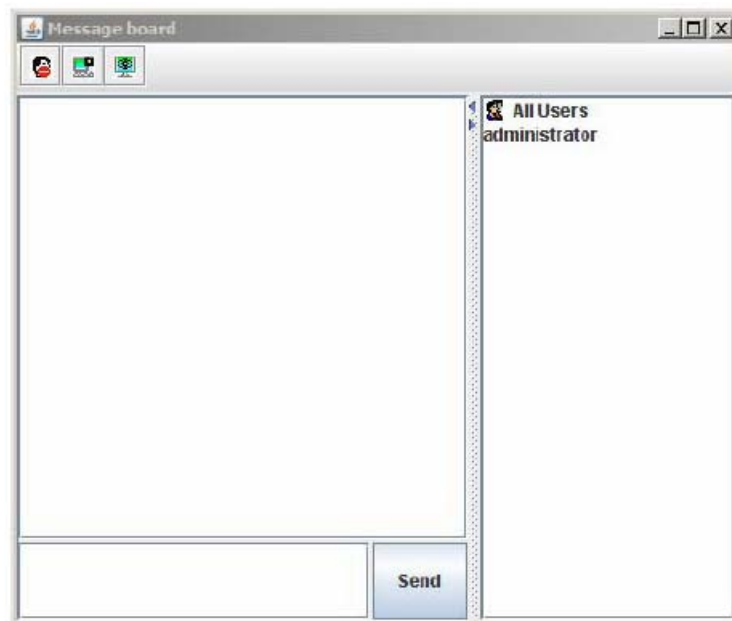
このダイアログにおける各項目の詳細は以下のとおりです。

項目	機能
Screen position	方向ボタンをクリックすることでローカルコンピュータのウィンドウの水平位置および垂直位置を調整します。
AutoSync	<p>このボタンをクリックすると、リモート画面の垂直方向および水平方向のオフセット値を検出し、ローカル画面で自動同期を取ります。</p> <p>ローカルとリモートの間でマウスが同期を失った場合、このボタンを押すことで同期することができます。</p> <p><b>注意:</b>この機能は画面が明るいときに効果を発揮します。</p> <p>自動同期の結果に満足されない場合は、「Screen Position」パネルにある方向ボタンを使って手動で設定しなおしてください。</p>
Video quality	スライダーを使ってビデオの画質を調節してください。(右側にスライドすると高い値に、左側にスライドすると低い値に設定されます)値がより大きければ画質はより向上しますが、それだけ多くのビデオデータが転送されることとなります。お使いのネットワークの帯域に依存しますので、高い値に設定するとレスポンス時間が遅くなる可能性があります。






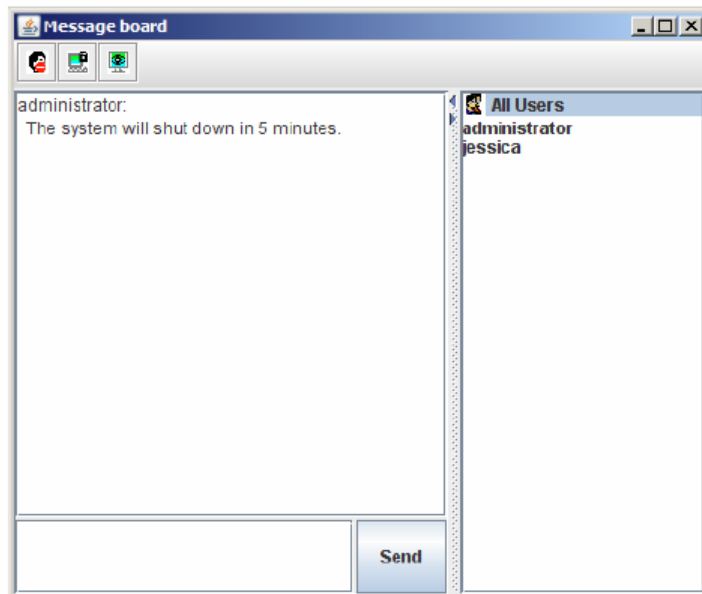
## Message Board

IP8000 はマルチユーザーログインに対応しておりますが、複数ユーザーによる操作の競合を避けるために、インターネットチャットプログラムのようなメッセージボード機能を提供しております。この機能を使うことによって、現在 IP8000 にログインしているユーザー同士でコミュニケーションをとることができます。



ボタンバーにあるボタンはトグルボタンです。各ボタンの機能は以下のとおりです。

ボタン	機能
	チャット機能を有効/無効にします。チャット機能が無効になっている場合、メッセージボードにメッセージが送信されても表示されません。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがチャット機能を無効にしていることを表しています。
	キーボード・モニタ・マウス(KVM)を専有/開放します。KVMがあるユーザーによって専有されている場合、他のユーザーは画面の参照およびキーボード・マウスの操作ができなくなります。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーが KVM を専有していることを表しています。
	キーボード・マウスを専有/開放します。キーボード・マウスがあるユーザーによって専有されている場合、他のユーザーは画面の参照は可能ですが、キーボード・マウスの操作ができなくなります。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがキーボード・マウスを専有していることを表しています。



- ◆ 現在 IP8000 にログインしているすべてのユーザーがユーザーリストパネルに表示されます。
  - メッセージを送信する前に、メッセージの宛先となるユーザーをユーザーリストパネルから選択してください。
  - ユーザーリストパネルを表示または非表示にする場合は、ユーザーリストパネルとメッセージ表示パネルの間の枠にある三角形のボタンをクリックしてください。
  - ユーザーがチャット機能を無効にしている場合、ユーザーリストパネルのユーザーネームの前に該当アイコンが表示されます。
  - ユーザーが KVM やキーボード・マウスを専有している場合、ユーザーリストパネルのユーザーネームの前に該当アイコンが表示されます。
- ◆ メッセージ編集パネルにメッセージの内容を入力し、「Send」ボタンをクリックしてメッセージを送信してください。
- ◆ ユーザーがメッセージボードに書き込んだメッセージは、システムメッセージと同様メッセージ表示パネルに表示されますが、チャット機能を無効にしていると送信されたメッセージは表示されません。



## Ctrl + Alt + Del

このボタンをクリックすると、ローカルシステムに[Ctrl] + [Alt] + [Del]の信号を送ります。



## Exit

このボタンをクリックすると、Java アプレットを終了し、ローカル操作に戻ります。



## Lock LEDs

これらのアイコンは、左から順にローカルコンピュータにおける Num Lock キー、Caps Lock キー、Scroll Lock キーの各状態を表しています。

- ◆ キーがロックされていない場合、そのキーに対応する LED ランプは暗いグリーンに点灯し、錠前が閉じた状態のアイコンが表示されます。
- ◆ キーがロックされている場合、そのキーに対応する LED ランプは明るいグリーンに点灯し、錠前が開いた状態のアイコンが表示されます。

アイコンをクリックすると、そのステータスを ON または OFF に切り替えます。

---

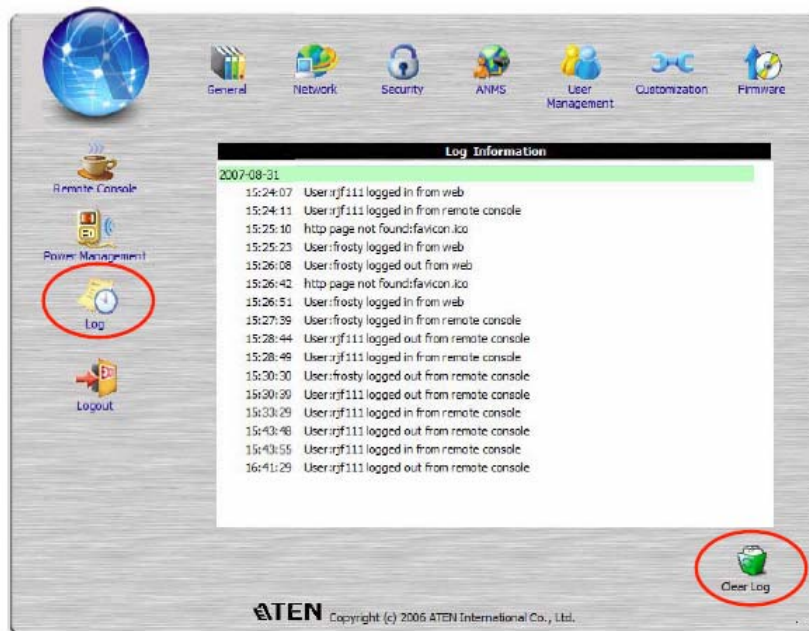
**注意:** 初回接続時には、これらの LED 表示が実際のキーの状態と一致していないことがあります。そのような場合には、このアイコンをクリックして、同期を取ってください。

---

# 第7章 ログファイル

## ログファイル画面

IP8000 で起こるすべてのイベントはログファイルに記録されます。ログファイルを表示するには、画面左側下部の Log アイコンをクリックしてください。下図のように表示されます。



最大 512 のイベントをログファイルで管理することができます。新規イベントが発生すると、ファイルの先頭に随時追加されていきます。ファイルに追加されたイベント数が最大に達した場合は、一番下の行が切り捨てられます。ログファイルをクリアするには、画面右側下部に表示されている「Clear Log」アイコンをクリックしてください。

**注意:** IP8000 がセットアップされているサーバがシャットダウンした際に IP8000 の電源アダプタが接続されていない場合、ブラウザベースのログファイルは消えてしまいますが、ログサーバが正しくインストール、設定されていれば、ログデータを回復することができます。詳細については第 8 章「ログサーバ」をご参照ください。

# 第 8 章

## ログサーバ

Windows ベースの IP8000 のログサーバは、指定された IP8000 で発生する全イベントを記録し、検索可能なデータベースに格納する、管理者向けのユーティリティです。ログサーバのインストーラ(LogSetup.exe)は IP8000 の製品同梱ソフトウェア CD に収録されています。本章では、ログサーバのインストールおよび設定の各方法について説明します。

### セットアップ

---

#### ログサーバのインストール

ログサーバをインストールする場合は、以下の手順で操作してください。

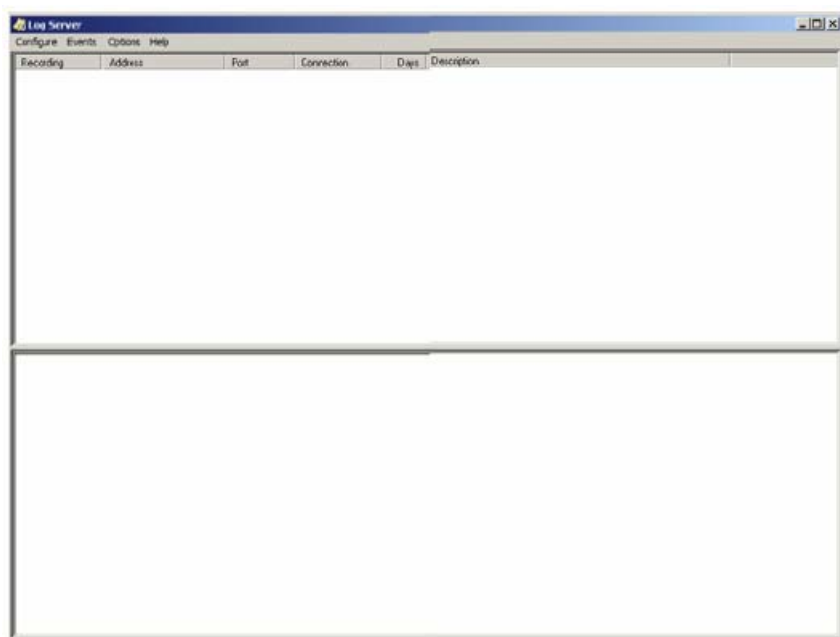
1. 製品同梱のソフトウェア CD に収録されている LogSetup.exe を、お使いのコンピュータのハードディスクの適当な場所にコピーしてください。
2. 手順 1 でコピーしたファイルを実行し、ダイアログ内の指示に従ってインストールを進めてください。

インストールが完了すると、「Log Server」アイコンがお使いのデスクトップ上に作成されます。また、Windows スタートメニューにもショートカットが作成されます。([スタート]→「すべてのプログラム」→[Log Server]→[Log Server])

## ログサーバの起動

---

ログサーバのメイン画面を表示するには、ログサーバのアイコンをダブルクリックするか、コマンドラインからこのプログラムのフルパスを入力して実行してください。プログラムが起動すると以下のような画面が表示されます。



- 
- 注意:**
1. ログサーバとして使用するコンピュータの MAC アドレスとポート番号は「ANMS」メニューで設定しておく必要があります。(p.41 参照)
  2. ログサーバでは、データベースへのアクセスに Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバを使用しますので、ログサーバをセットアップするコンピュータにこのドライバをインストールしてください。
- 

画面は以下の 3 つのコンポーネントに分かれています。

- ◆ 上部メニューバー
- ◆ メニューバー下部の IP8000 リストパネル(詳細は p.80 参照)
- ◆ 最下部のイベントリストパネル

各コンポーネントの詳細に関しては後述しますので、そちらをご参照ください。

## メニューバー

---

ログサーバのメニューバーは以下の項目から構成されています。

- ◆ Configure
- ◆ Events
- ◆ Options
- ◆ Help

各項目の詳細については後述しますので、そちらをご参照ください。

---

**注意:** ログサーバのウィンドウが選択されていない等の理由でメニューバーが有効になっていないように見える場合がございますが、このような場合は IP8000 一覧表示パネルをクリックし、ウィンドウをアクティブにしてメニューバーをご利用ください。

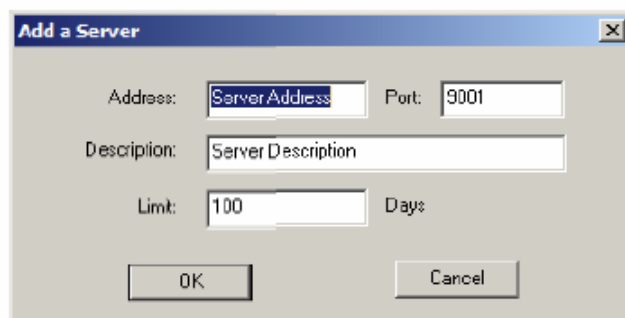
---

## Configure

「Configure」メニューには「Add」、「Edit」、「Delete」の 3 つのサブメニューが存在します。「Add」メニューでは IP8000 ユニットの一覧への新規追加を、「Edit」メニューではリストに登録されたユニット情報の編集を、また、「Delete」メニューでは一覧からのユニットの削除をそれぞれ行います。

- ◆ IP8000 ユニットを一覧に新たに追加する場合は、「Add」メニューをクリックしてください。
- ◆ リストから IP8000 のユニットを編集したり削除したりする場合は、リストから対象となる項目を選択し、この「Configure」メニューから「Edit」または「Delete」メニューをクリックしてください。

「Add」または「Edit」メニューをクリックすると、以下のようなダイアログが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Add a Server". It contains the following fields and controls:

- Address:** A text input field containing "Server Address".
- Port:** A text input field containing "9001".
- Description:** A text input field containing "Server Description".
- Limit:** A text input field containing "100".
- Days:** A text input field, currently empty.
- Buttons:** "OK" and "Cancel" buttons at the bottom.

ダイアログ内の各項目に関する詳細は以下のとおりです。

項目	説明
Address	IP8000 の IP アドレスまたは DNS 名 (DNS 名が有効になっている場合) を入力してください。ここで設定される内容は IP8000 の Web メニュー「ANMS」で設定されているものと同じである必要があります。(p.41 参照)
Port	IP8000 に割り当てられたログサーバのポート番号を入力してください。(p.41 参照)
Description	IP8000 に関する追加情報があれば、このフィールドに入力することができます。
Limit	ログサーバデータベースにおけるイベント保存日数を表します。

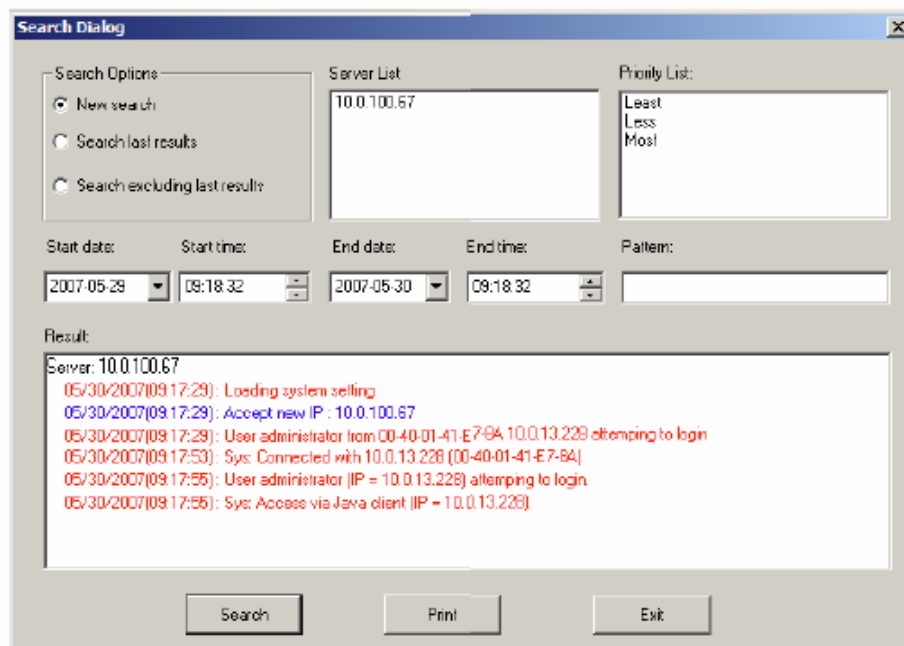
フィールドへの記入・編集が完了したら「OK」ボタンを押してください。

## Events

「Events」メニューは「Search」と「Maintenance」の 2 つのサブメニューから構成されています。

### Search

「Search」メニューでは、特定のキーワードを含むイベントを検索することができます。このメニューを起動すると、以下のようなダイアログが表示されます。



ダイアログ内の各項目に関する詳細は以下のとおりです。

項目	説明
Search Options	検索の対象となるデータの種別を以下のラジオボタンから選択します。
New search	このラジオボタンが選択されると、選択された IP8000 で発生したすべてのイベントを対象にして検索を行います。
Search last results	このラジオボタンが選択されると、前回の検索結果を対象に検索を行います。
Search excluding last results	このラジオボタンが選択されると、前回の検索結果以外を対象にして検索を行います。
Server List	IP8000 が IP アドレス順に一覧表示されます。ログの検索を行いたい IP8000 をリストから選択してください。(複数選択可) このリストから何も選択されていない場合は、すべての IP8000 のログを対象に検索を行います。
Priority List	表示する検索結果のレベルを設定します。1 を選択すると簡易版表示を、3 を選択すると詳細表示をそれぞれ行います。
Start Date/Time	検索対象となるログの日時をカレンダーコントロールから選択、もしくはリストボックスに「YYYY/MM/DD」 「HH:MM:SS」の形式で直接入力してください。  入力例) 2005 年 11 月 4 日 13 時 45 分 8 秒 ⇒2005/11/04 13:45:08
End Date/Time	検索対象となるログのタイムスタンプの終点を入力してください。「Start Date/Time」に記載されたものと同様のフォーマットで入力してください。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Pattern	パターン検索を行う場合の文字列を入力してください。 任意の文字列を表すワイルドカード(%)を使用することも可能です。  例) h%ds という検索条件で、「hands」と「hoods」という文字列にヒットします。
Result	検索条件に一致したイベントが一覧表示されます。
Search	入力された条件で検索を行います。
Print	検索結果を印刷します。
Exit	検索ダイアログボックスを閉じます。

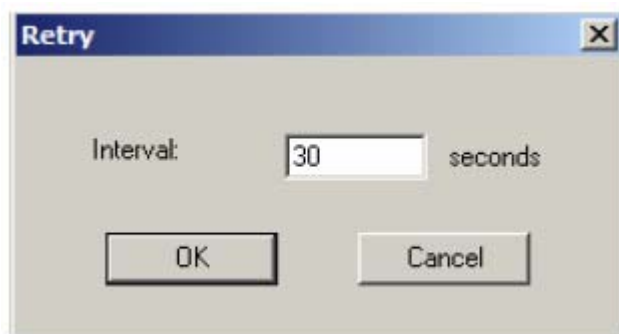
## Maintenance

この機能を使うことで、IP8000 の管理者は「Edit」機能の「Limit」の項目 (p.76 参照) で設定した保管期限を過ぎていないログの内容を手動で削除することができます。

## Options

このメニューには「Network Retry」というサブメニューがあります。

このメニューでは、接続失敗による再試行までの待機時間(秒)を設定します。メニューをクリックすると、以下のような「Retry」ダイアログが表示されます。



待機秒数を入力したら、「OK」ボタンを押してください。

## Help

ログサーバのオンラインヘルプ(英語)を表示する場合は、このメニューのサブメニューである「Contents」をクリックしてください。このヘルプには、ログサーバのセットアップ、操作方法、トラブルシューティング等が記載されています。

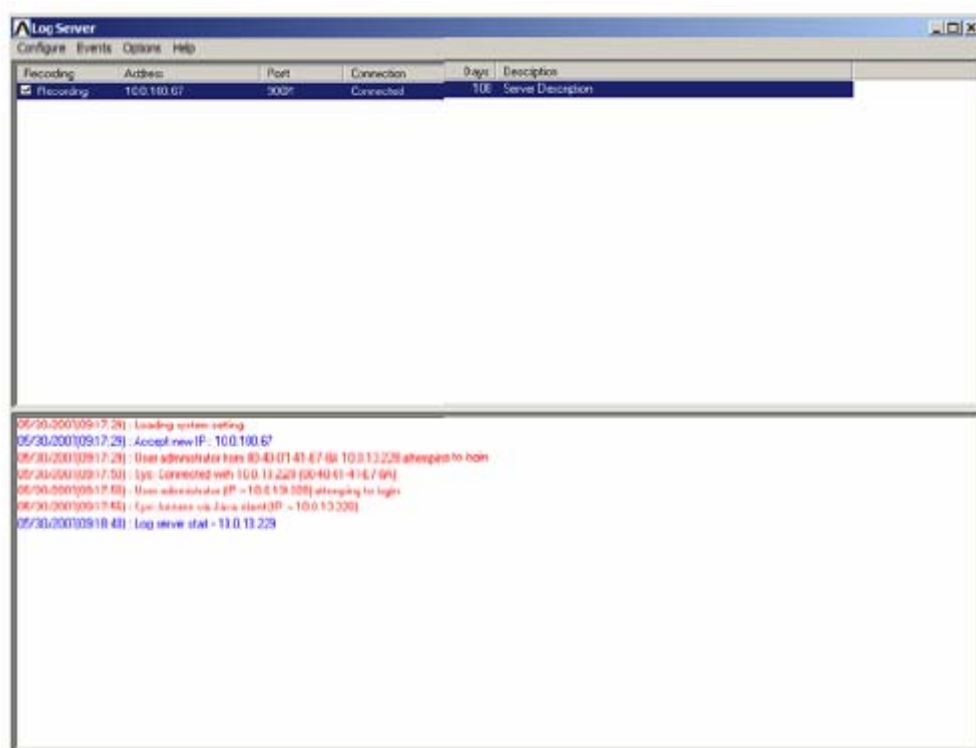
## ログサーバ メイン画面

---

### 概要

ログサーバのメイン画面は以下の2つのパネルから構成されています。

- ◆ 上部パネル(リストパネル)には、ログサーバによるイベント監視対象として設定されているIP8000の一覧が表示されます。(p.75「Configure」参照)
- ◆ 下部パネル(イベントパネル)には、現在リストパネルで選択されているIP8000のイベントログが表示されます。



## リストパネル

リストパネルの各項目は以下のとおりです。

項目	説明
Recording	ログサーバがこのリストに表示されている IP8000 のログを記録するかどうかを設定します。項目にチェックを入れると、この欄に「Recording」と表示され、ログの記録を行います。項目からチェックをはずすと、この欄に「Paused」と表示され、ログの記録は行いません。  <b>注意:</b> このリストに表示されている IP8000 は選択状態にかかわらず、チェックがついていればログサーバはそのユニットのログを記録します。
Address	IP8000 がログサーバに登録された際に設定された IP アドレスまたは DNS 名です。(p.75「Configure」参照)
Port	IP8000 が通信に使用するポート番号です。(p.75「Configure」参照)
Connection	ログサーバが IP8000 に接続している場合、このフィールドには「Connected」と表示されます。 また、IP8000 に接続していない場合には、このフィールドに「Waiting」と表示されます。これはログサーバの MAC アドレスまたはポート番号が正しく設定されていないことを表していますので、「ANMS」メニュー (p.41 参照) および「Configure」ダイアログ (p.75 参照) で正しい内容に設定してください。
Days	IP8000 のイベントをログサーバに保管する日数を表します。(p.75「Configure」参照)
Description	ログサーバ登録時に設定された IP8000 に関する追加情報です。(p.75「Configure」参照)

## イベントリストパネル

このパネルには現在選択されている IP8000 のログの内容が表示されます。IP8000 リストパネルで選択されていない項目のログはイベントリストパネルには表示されませんが、IP8000 リストパネルでチェックが入っていれば、そのユニットのログはログサーバのデータベースに登録されます。

# 第9章

## IP8000 ユーティリティソフトウェア

### はじめに

---

IP8000 では、ブラウザベースのクライアントユーティリティに加え、ブラウザを使用しない環境でもご利用いただけるスタンドアロンの Windows 版および Java 版のアプリケーションをご用意しております。これらのアプリケーションは製品同梱のソフトウェア CD に収録されており、Windows クライアントのインストーラは「ip8000winclient.exe」、Java クライアントは「iClientJ.jar」というファイル名でご提供しております。

### アプリケーション版 Windows クライアント

---

#### インストール

スタンドアロン版の Windows クライアントのインストールは、以下の手順で作業を行ってください。

1. 製品同梱 CD に収録されている Windows クライアントのインストーラ(ip8000winclient.exe) を、お使いのコンピュータのディスクの適当な場所にコピーしてください。
2. インストーラ画面内の指示に従ってインストールを進めてください。

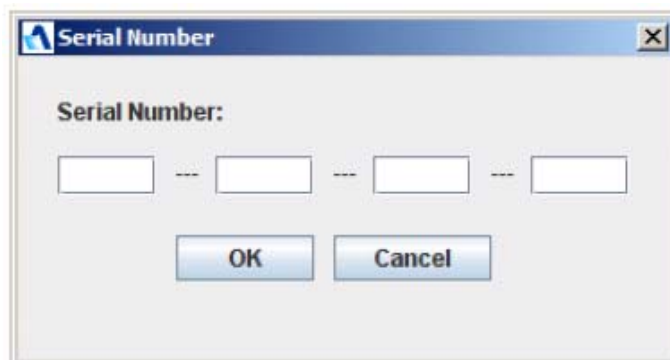
インストールが完了すると、アイコン(IP8000WinClient)がお使いのコンピュータのデスクトップ上に作成されます。また、Windows のスタートアップメニューにもショートカットが作成されますので、こちらからも起動することが可能です。

([スタート]—[すべてのプログラム]—[IP8000]—[IP8000WinClient])

## Windows クライアントの起動

スタンドアロン版の Windows クライアントは、デスクトップ上のアイコン、スタートメニューのどちらからでも起動することができます。

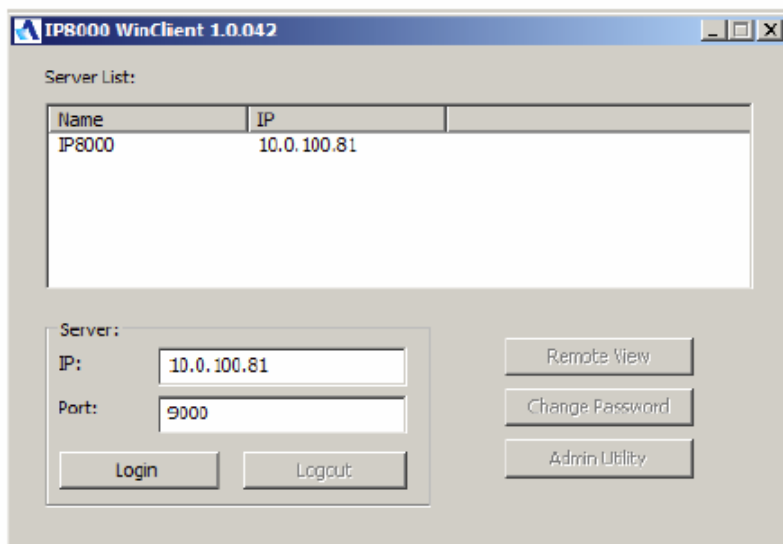
Windows クライアントの初回起動時には、以下のようなダイアログが表示され、ソフトウェアのシリアルナンバーの入力を求められます。



このシリアルナンバーは、IP8000 ソフトウェア CD に貼り付けられているラベルに記載されています。シリアルナンバーを各テキストボックスに 5 桁ずつ入力し、入力が終わったら「OK」ボタンをクリックしてください。

- 
- 注意:**
1. シリアルナンバーにアルファベットが含まれている場合は、そのアルファベットを必ず大文字で入力してください。
  2. このダイアログボックスはスタンドアロン版 Windows クライアントの初回起動時にものみ表示されます。一度正しいシリアルナンバーを入力していただければ、次の起動時からはこの入力は不要です。
-

## Windows クライアント接続画面



このダイアログにおける各項目の内容は以下のとおりです。

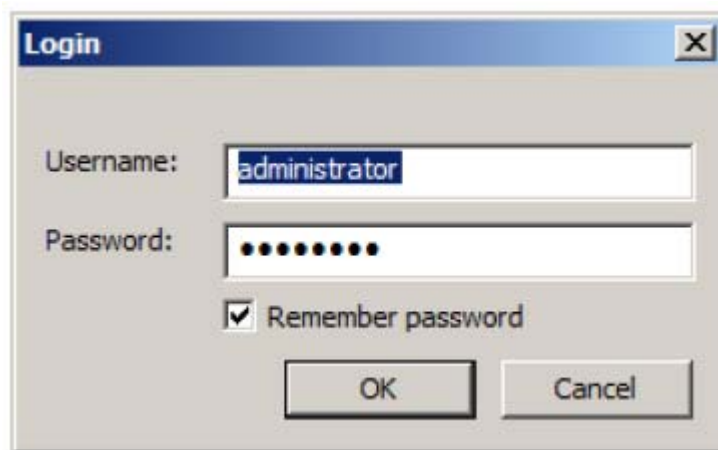
項目	説明
Server List	IP8000 の Windows クライアントは、起動時にローカル LAN セグメントにある IP8000 を検出し、このリストに一覧表示します。特定のユニットに接続する場合は、その項目をリストから選択し、「Login」ボタンをクリックしてください。また、IP8000 との接続を終了する場合は、「Logout」ボタンをクリックしてください。
Server	この欄は IP8000 へのリモート接続時に使用します。接続対象となる IP8000 の IP アドレスがリストに表示されていない場合は、「IP」の欄に正しい IP アドレスを入力してください。 IP アドレスを入力したら、「Port」の欄に接続に使用するポート番号を入力してください。ポート番号がご不明な場合は、IP8000 の管理者までお問い合わせください。 IP アドレスとポート番号が確定したら、「Login」ボタンを押して接続を開始します。作業を終了する場合は「Logout」を押してセッションを終了してください。
Login	IP8000 との接続を開始します。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Logout	これらのボタンは、IP8000にログインしているときに有効になります。詳細は p.86 をご参照ください。
Remote View	
Change Password	
Admin Utility	

## ログイン

IP8000 に接続すると、以下のようなログインダイアログが表示されます。



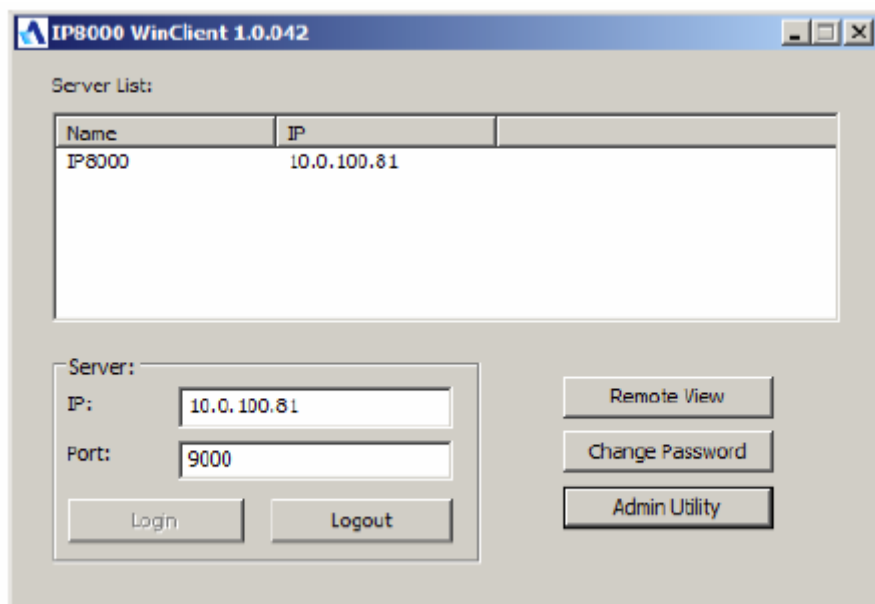
正しいユーザーネームとパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。

---

**注意:** IP8000 のデフォルトユーザーネームは「administrator」、デフォルトパスワードは「password」です。セキュリティの観点からも、このアカウントを変更することを強く推奨します。(詳細は p.92「User Management」参照)

---

ログインに成功すると、以下のような接続画面が表示されます。



このとき、以下の 4 つのボタンが有効になります。各ボタンの機能は以下のとおりです。

ボタン	説明
Logout	IP8000 との接続を終了します。
Remote View	管理者がユーザーにブラウザ経由による IP8000 へのログインを許可したくない場合は、この機能をご利用いただくことで解決することができます。このボタンをクリックすると、ブラウザベースの Windows クライアントと同様に、リモートサーバのデスクトップの内容をお使いのモニタに表示します。リモートデスクトップの操作方法の詳細については第 5 章をご参照ください。
Change Password	このメニューを使用することで、自身のパスワードは、管理者に依頼することなく変更することができます。
Admin Utility	アドミニストレーターユーティリティを使用することで、管理者はブラウザを使用せずに IP8000 の設定や管理を行うことが可能です。アドミニストレーターユーティリティの使用方法については以下のセクションで説明します。

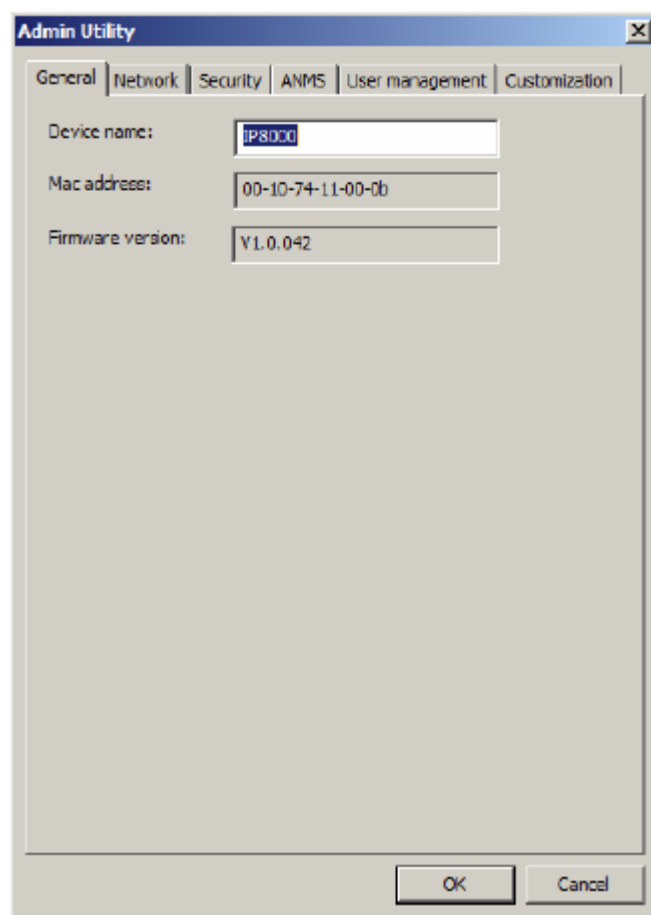
## アドミニストレーターユーティリティ

---

アドミニストレーターユーティリティは、機能別に分かれたタブメニューの付いたダイアログボックスのインターフェースで提供されています。各タブの機能に関する説明および設定方法については以下のセクションで説明します。

### General

アドミニストレーターユーティリティを起動すると、「General」タブが最初に表示されます。

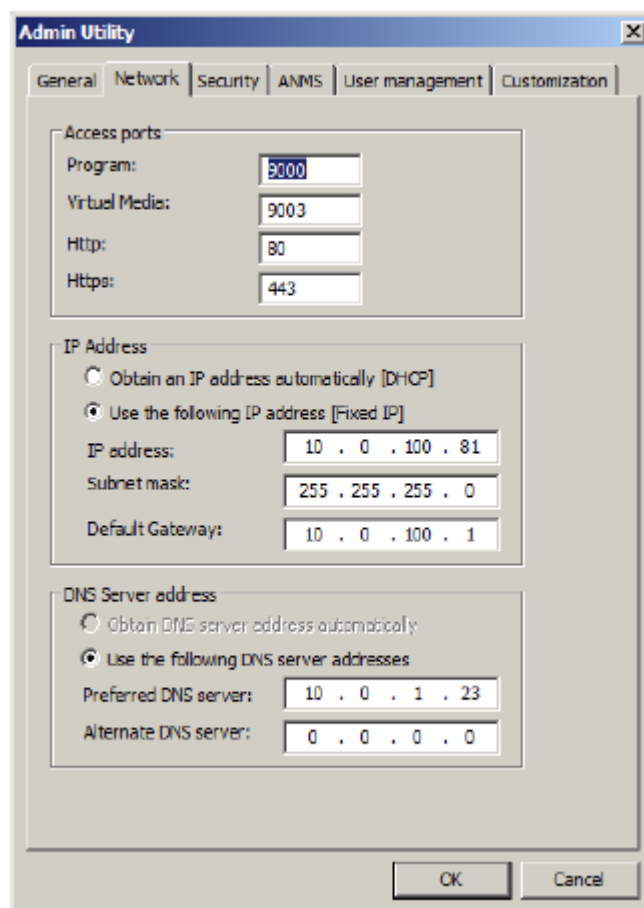


「General」タブには、IP8000 の基本情報が表示されます。各項目の詳細は以下のとおりです。

項目	内容
Device Name	複数の IP8000 の管理を簡単に行うために、デバイスに名前をつけることができます。IP8000 に名前をつける場合は、このフィールドを編集してください。(最大半角英数字 16 文字で設定可能です)
MAC Address	IP8000 の MAC アドレスが表示されます。
Main Firmware Version	現在のマザーボードのファームウェアのバージョンが表示されます。IP8000 の新しいファームウェアや認証ソフトウェアは弊社 Web サイトからダウンロードしてください。(詳細は p.94「ファームウェアのアップグレード」を参照)

## Network

このタブでは、IP8000 のネットワーク環境の設定を行います。



The screenshot shows the 'Admin Utility' window with the 'Network' tab selected. The window is divided into three main sections: 'Access ports', 'IP Address', and 'DNS Server address'. Each section contains several input fields and radio buttons for configuration.

Section	Field	Value
Access ports	Program	8000
	Virtual Media	9003
	Http	80
	Https	443
IP Address	Obtain an IP address automatically [DHCP]	<input type="radio"/>
	Use the following IP address [Fixed IP]	<input checked="" type="radio"/>
	IP address	10 . 0 . 100 . 81
	Subnet mask	255 . 255 . 255 . 0
Default Gateway	10 . 0 . 100 . 1	
DNS Server address	Obtain DNS server address automatically	<input type="radio"/>
	Use the following DNS server addresses	<input checked="" type="radio"/>
	Preferred DNS server	10 . 0 . 1 . 23
Alternate DNS server	0 . 0 . 0 . 0	

このタブにおける項目とその設定方法は、Web メニューのものと同じです。詳細に関しては、p.35 の「Network」の内容をご参照ください。

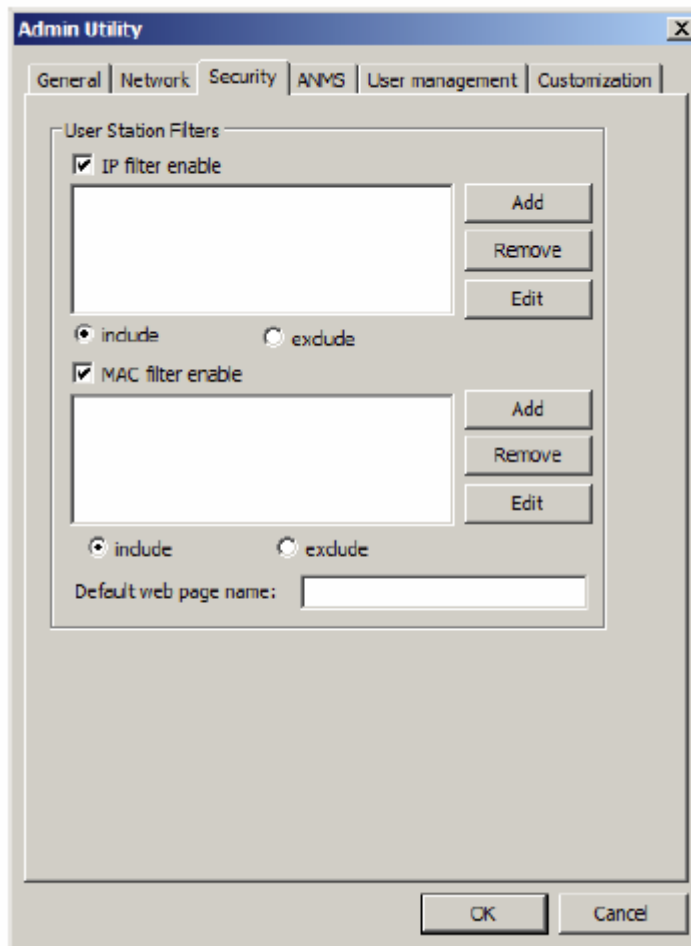
---

**注意:** このとき、アドミニストレーターユーティリティを終了する前に、「Customization」タブの「Reset on exit」(p.93 参照)の項目にチェックが入っていることを確認してください。これによって、IP8000 の電源を入れなおすことなくネットワークの設定を有効にすることができます。

---

## Security

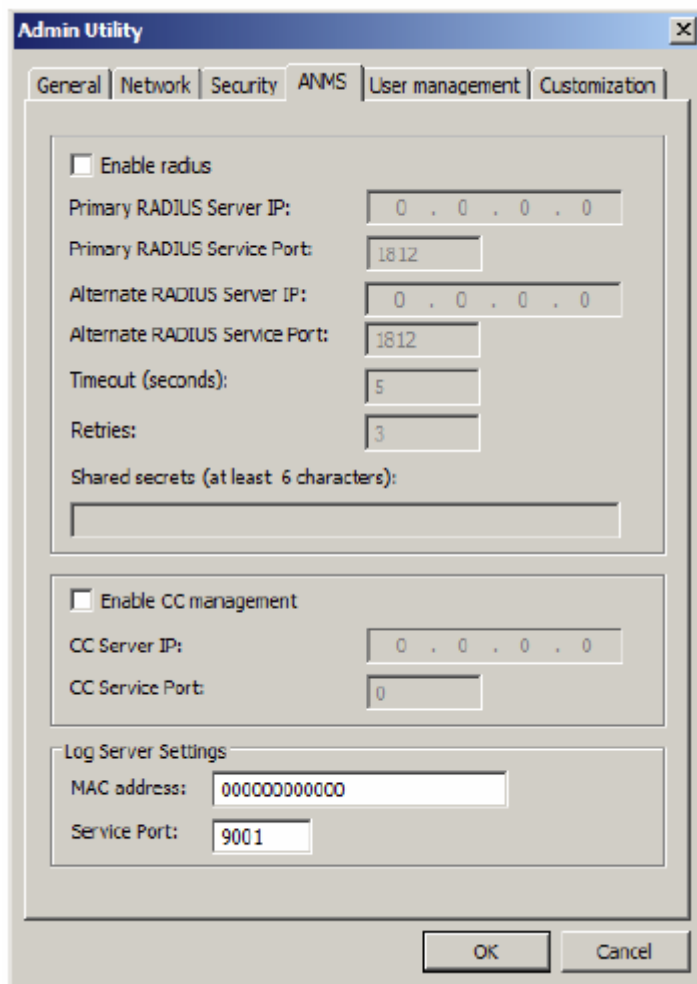
「Security」タブでは、外部から IP8000 に対するアクセスを管理します。



このタブにおける項目とその設定方法は、Web メニューのものと同じです。詳細に関しては、p.38 の「Security」の内容をご参照ください。

## ANMS

このタブでは、外部サーバによるログイン認証管理のセットアップを行います。



The screenshot shows the 'Admin Utility' window with the 'ANMS' tab selected. The window contains three main sections of configuration options:

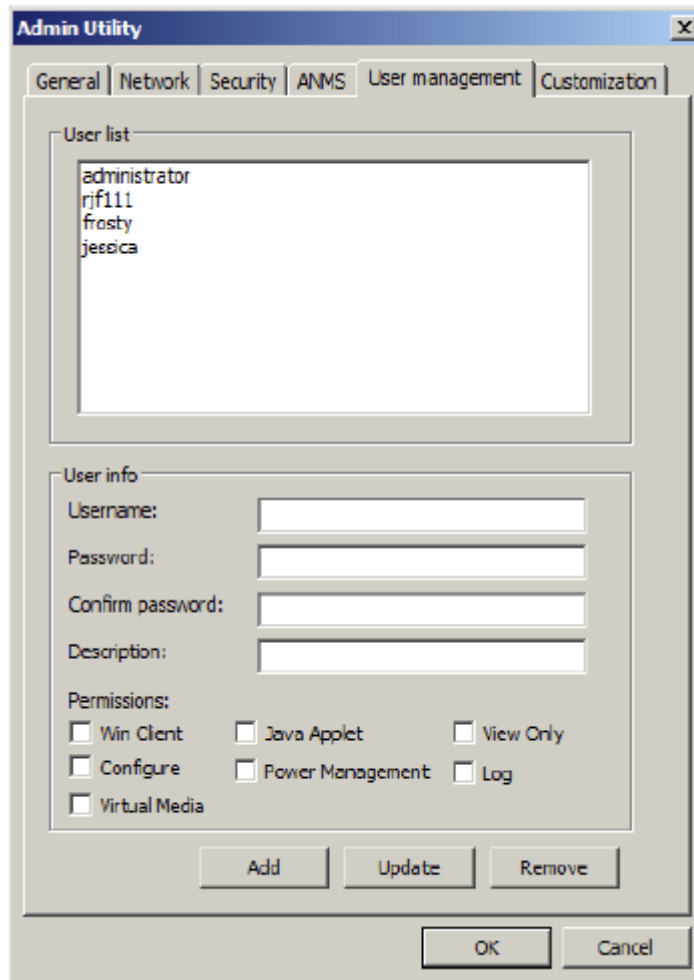
- Enable radius:** A checkbox that is currently unchecked. Below it are fields for:
  - Primary RADIUS Server IP: 0 . 0 . 0 . 0
  - Primary RADIUS Service Port: 1812
  - Alternate RADIUS Server IP: 0 . 0 . 0 . 0
  - Alternate RADIUS Service Port: 1812
  - Timeout (seconds): 5
  - Retries: 3
  - Shared secrets (at least 6 characters): An empty text field.
- Enable CC management:** A checkbox that is currently unchecked. Below it are fields for:
  - CC Server IP: 0 . 0 . 0 . 0
  - CC Service Port: 0
- Log Server Settings:** Fields for:
  - MAC address: 000000000000
  - Service Port: 9001

At the bottom of the window are 'OK' and 'Cancel' buttons.

このタブにおける項目とその設定方法は、Web メニューのものと同じです。詳細に関しては、p.41 の「ANMS」の内容をご参照ください。

## User Management

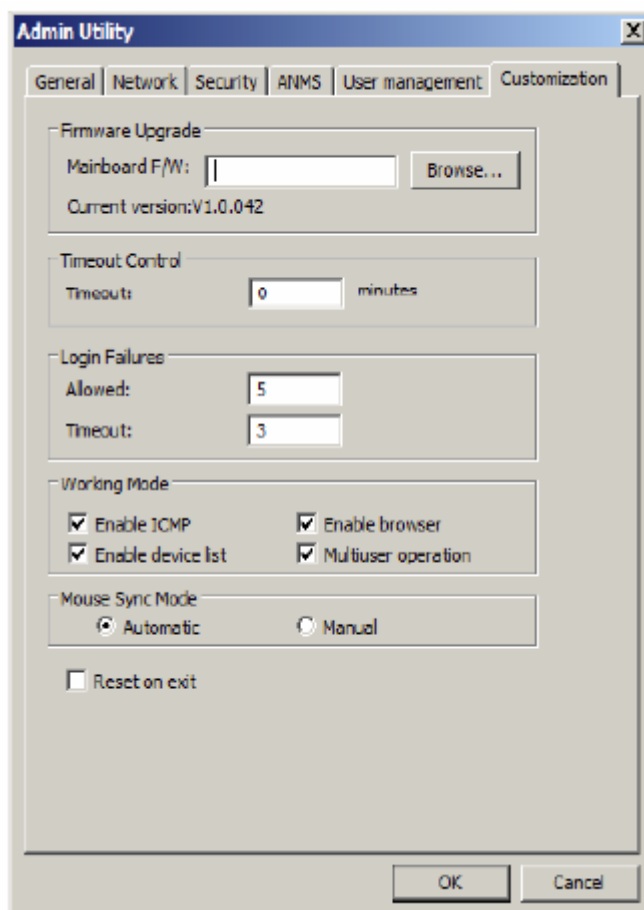
このタブでは、ユーザーアカウントのセットアップと管理を行います。ユーザーの基本情報、および各ユーザーのアクセス権限を定義することが可能です。IP8000 では最大 64 ユーザーのプロファイルを管理することができます。



このタブにおける項目とその設定方法は、Web メニューのものと同じです。詳細に関しては、p.44 の「User Management」の内容をご参照ください。

## Customization

このタブで、管理者はファームウェアのアップグレードや、タイムアウト、ログイン再試行可能回数、動作モードといったパラメータを設定することができます。



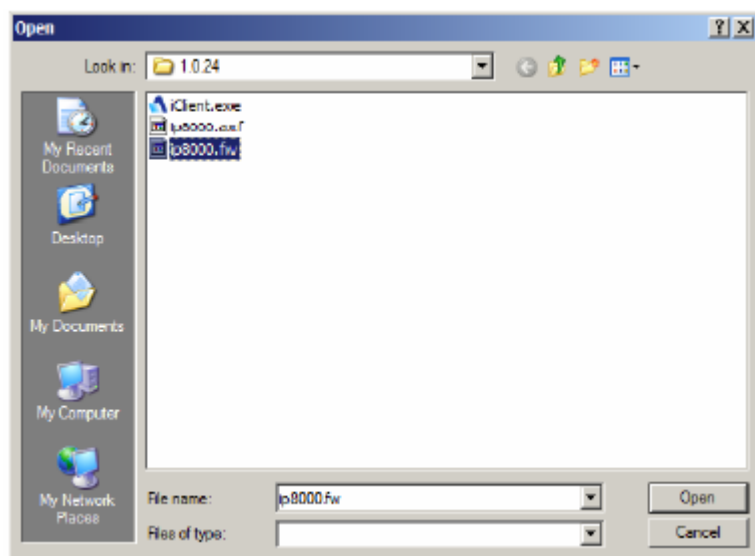
このタブにおける項目とその設定方法は、「Firmware Upgrade」のセクションを除き、Webメニューのものと同じです。各項目の詳細に関しては、p.46 の「Customization」の内容をご参照ください。

この画面における「Firmware Upgrade」セクションは、IP8000 のファームウェアをアップグレードする際に使用します。ファームウェアのアップグレードについては以下のセクションで説明します。

## ファームウェアのアップグレード

新しいバージョンのマザーボードのファームウェアは、リリースされると、弊社 Web サイトからダウンロードしてご利用いただけます。新しいファームウェアをダウンロードしたら、以下の手順でファームウェアのアップグレードを行ってください。

1. アドミニストレーターユーティリティの「Customization」タブ (p.93 参照) で、「Browse」ボタンをクリックしてください。
2. 「ファイルを開く」ダイアログから、事前にダウンロードしておいたファームウェアファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックしてください。



3. Customization タブに戻ると、「Mainboard F/W」のフィールドにそのファイルのファームウェアのバージョンが表示されます。「OK」ボタンをクリックして、アップグレード作業を開始してください。

## アプリケーション版 Java クライアント

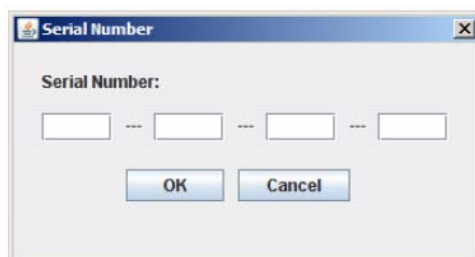
---

Java クライアントを使用することで、プラットフォームを問わず IP8000 へのアクセスが可能となります。IP8000 の Java クライアントは、JRE6 Update3 以降のバージョンがインストールされているコンピュータでご利用いただけます。このバージョンの Java がインストールされていない場合は、Sun Java の Web サイトから無料で提供されておりますので、お手数ですが、そちらからダウンロードして、お使いのコンピュータにセットアップしてください。( <http://www.java.com> または <http://java.sun.com> )

### Java クライアントの起動

スタンドアロン版の Java クライアントで IP8000 に接続するには、まず、製品同梱のソフトウェア CD に収録されている Java クライアント (iClientJ.jar) をお使いのコンピュータのディスクの適当なところにコピーしてください。このファイルのアイコンをダブルクリックする、または、コマンドラインからファイルのフルパスを入力して実行すると、Java クライアントの接続画面が表示されます。

- 
- 注意:**
1. シリアルナンバーにアルファベットが含まれている場合は、そのアルファベットを必ず大文字で入力してください。
  2. この Java クライアントの初回起動時には、以下のようなシリアルナンバーの入力を促すダイアログが表示されます。

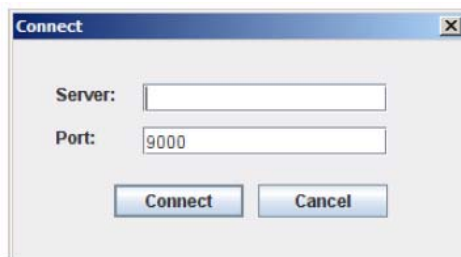


シリアルナンバーは、IP8000 ソフトウェア CD に貼り付けられているラベルに記載されています。シリアルナンバーを各テキストボックスに 5 桁ずつ入力し、入力が終わったら「OK」ボタンをクリックして IP8000 接続画面を表示してください。

このダイアログボックスはスタンドアロン版 Java クライアントの初回起動時にのみ表示されます。一度正しいシリアルナンバーを入力していただければ、次の起動時からはこの入力は不要です。

---

## Java クライアント接続画面

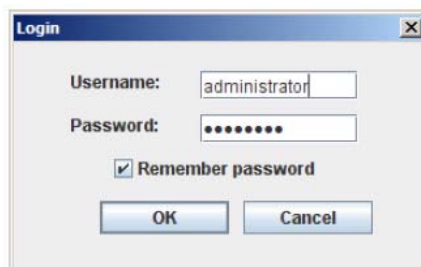


IP8000 に接続する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Server」の項目に IP8000 の IP アドレスを入力してください。
2. IP8000 との通信に使用するポート番号が、ダイアログに表示されているものと異なる場合は、正しいポート番号を入力してください。
3. 「Connect」ボタンをクリックしてください。

## ログイン

IP8000 に接続すると、以下のログインダイアログが表示されます。



正しいユーザーネームとパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。

---

**注意:** IP8000 のデフォルトユーザーネームは「administrator」、デフォルトパスワードは「password」です。セキュリティの観点からも、このアカウントを変更することを強く推奨します。(詳細は p.92「User Management」参照)

---

ログインに成功すると、ローカルサーバのデスクトップがウィンドウメニューとしてお使いのモニターに表示されます。このウィンドウの操作方法はブラウザベースの Java アプレットと同じです。詳細に関しては第 6 章をご参照ください。

# 付録

## 製品仕様

機能		IP8000
コンピュータ接続数	ダイレクト接続	1
コンピュータ側コネクタ	キーボード	SPHD メス×1
	マウス	
	モニタ	
ビデオ出力ポート		D-sub15ピン メス×1
LANポート		RJ-45×1
電源ジャック		DC電源ジャック×1
LED	リンク	グリーン×1
	10/100Mbps	グリーン/オレンジ×1
キーボード・マウスエミュレーション		USB
対応プロトコル		10BaseT/100BaseTX、TCP/IP 準拠
電源仕様(アダプタ)		型番:0AD8-0705-261G 入力:AC100V~240V 出力:DC5V / 2.6A
消費電力		6W
VGA 解像度		最大 1,600×1,200@60Hz DDC2B 準拠
動作環境	動作温度	0~50℃
	保管温度	-20℃~60℃
	湿度	0~80%RH、結露なきこと
重量		100g
サイズ(W×D×H)		120×153.5×21.5mm
同梱品		電源アダプタ×1 KVM ケーブル(35cm)×1 インターコネクタケーブル(4ピン)×1 ソフトウェア CD×1 ユーザーマニュアル×1 クイックスタートガイド×1

## IP アドレスの設定

---

アドミニストレーターとして IP8000 に最初にログインする場合は、他のユーザーが外部からアクセスできるように IP8000 に IP アドレスを設定する必要があります。IP アドレスの設定には、以下の 2 つの方法をご用意しております。

- 1) コンピュータアドレスのリセット
- 2) Windows クライアントの起動

上記の方法 1 は、IP8000 に固定 IP アドレスを設定するのに便利な方法です。また、方法 2 では動的 IP アドレス(DHCP)、固定 IP アドレスのどちらも設定することが可能です。どの方法で設定する場合も、お使いのコンピュータが IP8000 と同一ネットワークセグメントにあることをご確認ください。

---

**注意:** DHCP を使用して他の IP アドレスをデバイスに割り当てる場合は、Windows クライアントを使用して設定するとより便利にお使いいただけます。

---

IP8000 に接続しログインが完了すると、IP8000 に固定の IP アドレスを設定することができます。  
(p.35「Network」参照)

### コンピュータアドレスのリセット

Windows 以外のコンピュータをお使いの場合は、Web ブラウザを使用して IP アドレスの設定を行うことができます。IP8000 は、起動後 30 秒以内に DHCP サーバから IP アドレスを取得できなかった場合、自動的にデフォルト IP アドレス「192.168.0.60」を設定します。この方法で IP アドレスを設定する場合は、以下の手順で操作してください。

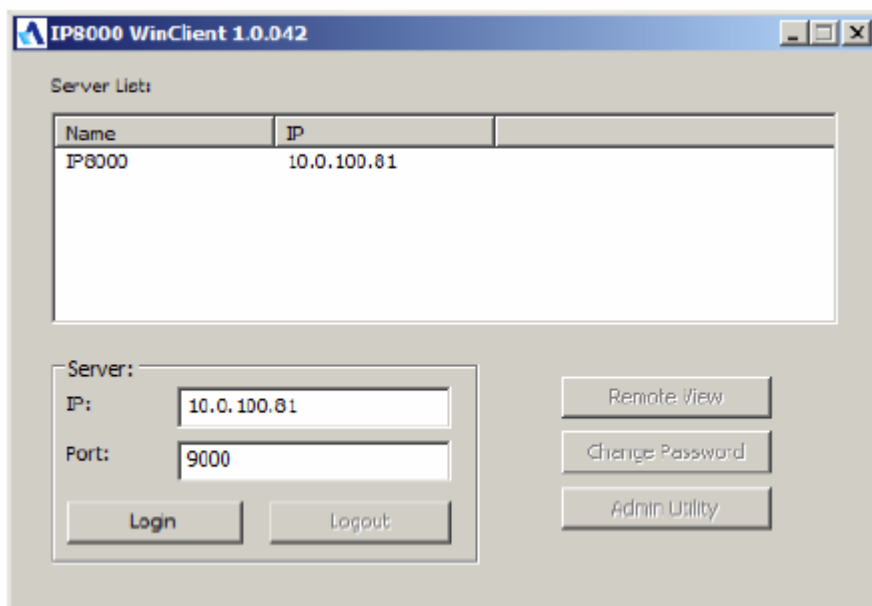
1. お使いのコンピュータの IP アドレスを「192.168.0.XXX」に設定してください。  
「XXX」の部分には、60 以外の 0～255 の値を入れてください。
2. ブラウザの URL バーに IP8000 のデフォルト IP アドレス(192.168.0.60)を入力し、アクセスしてください。

- ログインに成功したら、「Network」アイコン(p.35 参照)をクリックし、IP8000 がセットアップされているネットワーク環境で有効な固定 IP アドレスを設定してください。
- IP8000 からログアウトしたら、IP8000 とのアクセスに使用したコンピュータの IP アドレスの設定を元に戻してください。

## Windows クライアント

Windows が稼働中のコンピュータの場合、IP8000 の IP アドレスは、アプリケーション版の Windows クライアントから設定することができます。

アプリケーション版 Windows クライアント(p.82 参照)を起動すると、同一ネットワークセグメント内にある IP8000 を検索し、検出したデバイスを以下のように一覧形式で表示します。



「Server」欄に表示されているものを必要であれば変更し、「**Login**」ボタンを押してください。「Login」ボタンをクリックすると、「**Admin Utility**」ボタンが有効になりますので、このボタンをクリックし、「Network」タブを開いてください。「Network」タブの詳細については p.89 をご参照ください。

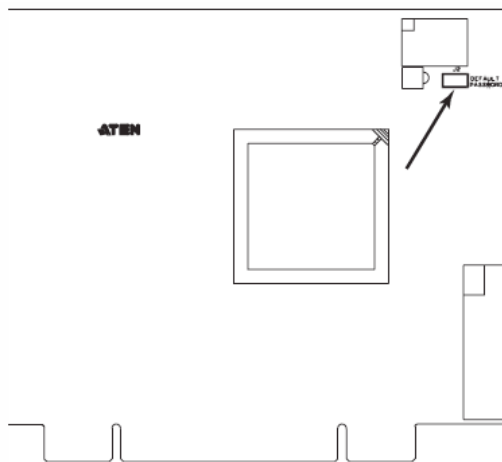
## アドミニストレーターでログインできない場合

ユーザーネームやパスワードを忘れた等の理由でアドミニストレーターとしてログインできない場合、ログイン情報を消去することができます。

**注意:** 以下の作業を行うと、システムの設定内容がすべてデフォルト値に戻りますので、ご注意ください。

ログイン情報を消去し、設定値をすべてデフォルトの内容に戻す場合は、以下の手順で作業してください。

1. 電源アダプタケーブルを抜いて、IP8000 の電源を切ってください。
2. IP8000 がセットアップされているサーバの電源を切って、ケースをはずしてください。
3. IP8000 上の「J2 Default Password」と記載されているジャンパをショートさせてください。



4. IP8000 に電源アダプタケーブルを挿して電源を入れなおしてください。電源が入ったことを確認したら、数秒後に先ほど挿した電源アダプタケーブルをもう一度抜いてください。
5. J2 からジャンパキャップをはずしてください。
6. サーバにケースをかぶせ、電源を入れなおしてください。
7. 電源アダプタケーブルを挿して IP8000 に電源を入れなおしてください。

この作業が完了すると、デフォルトユーザーネームとパスワード(p.29 参照)を使用して IP8000 にログインできるようになります。

## トラブルシューティング

### 概要

操作上の問題は様々な理由によって起こります。問題が発生したら、まず、ケーブルが KVM スイッチおよびコンピュータの各ポートに正しく接続されていることを確認してください。

また、これらの問題は、ファームウェアのアップグレードの適用によって解決することがあります。現在お使いのバージョンが最新でない場合は、最新版のファームウェアを適用することをお勧めします。詳細については p.94 の「ファームウェアアップグレードユーティリティ」をご参照ください。

### Windows クライアント

問題	解決方法
リモートとローカルのマウスポインタが同期していない。	「Auto Sync」機能 (p.56 参照) を使って、ローカルとリモートのモニタを同期させてください。
	上記の方法で解決しない場合は、「Toggle Pointer Display」機能 (p.54 参照) をお使いください。
	上記 2 つの方法でも解決しない場合は、ローカルとリモートの両方で「その他のマウス同期方法」(p.105 参照) に記載されている方法を実行してください。
リモートモニタでローカルディスプレイの一部分しか表示されない。	「Auto Sync」機能 (p.56 参照) を使ってローカルとリモートのモニタの同期を取ってください。
ログインすると、ブラウザで「ルート認証局が発行した電子証明書は信頼できません」というメッセージや認証エラーが返ってくる。	Microsoft の信頼された認証局のリストに認証名が登録されていない可能性があります。この証明書は信頼できるものです。詳細については p.108 の「信頼された証明書」をご覧ください。

## Java クライアント

問題	解決方法
Java アプレットが IP8000 に接続できない。	<ol style="list-style-type: none"><li>1. JRE 6 Update 3 以上がお使いのコンピュータにインストールされている必要があります。</li><li>2. Java アプレットを一度終了させて、もう一度実行してみてください。</li></ol>
Java アプレットのパフォーマンスが悪い。	プログラムを一度終了させて、もう一度実行してみてください。
英語以外の言語の文字が表示されない。	英語以外の文字を入力する際に、ローカルキーボードのレイアウトが英語以外に設定されている場合は、リモートコンピュータのキーボードレイアウトを英語に設定する必要があります。
ログインすると、ブラウザで「ルート認証局が発行した電子証明書は信頼できません」というメッセージや認証エラーが返ってくる。	Microsoft の信頼された認証局のリストに認証名が登録されていない可能性があります。この証明書は信頼できるものです。詳細については p.108 の「信頼された証明書」をご覧ください。
バーチャルメディアのアイコンがコントロールパネルに表示されない。	バーチャルメディア機能は Windows クライアントにのみ対応しております。ご了承ください。

## ログサーバ

問題	解決方法
ログサーバプログラムが実行できない	<p>ログサーバプログラムはデータベースにアクセスするために Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバが必要です。</p> <p>このドライバは Windows ME、2000、XP には標準で搭載されていますが、Windows 98 や NT をご使用になっている場合は、Microsoft 社のサイトからダウンロードしてインストールする必要があります。</p> <p><a href="http://www.microsoft.com/data/download.htm">http://www.microsoft.com/data/download.htm</a></p> <p>ダウンロードページで以下のファイルを検索し、入手します。</p> <p><b>MDAC 2.7 RTM Refresh (2.70.9001.0)</b></p> <p>このドライバは Windows Office Suite でも使用されているので、Windows Office Suite をインストールしてもログサーバプログラムが実行可能になります。</p>

## Sun

問題	解決方法
D-sub15ピンのコネクタを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する。(例: Sun Blade 1000 Server)	ディスプレイの解像度は 1,024×768 に設定する必要があります。 テキストモードで、 1. OK モードを起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> XWindow で、 1. コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>m64config -res 1024x768x60</pre> 2. ログアウトします。 3. もう一度ログインします。
13W3のコネクタを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する。(例: Sun Ultra Server)	ディスプレイの解像度は 1,024×768 に設定する必要があります。 テキストモードで、 1. OK モードを起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> XWindow で、 1. コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>m64config -res 1024x768x60</pre> 2. ログアウトします。 3. もう一度ログインします。
ローカルとリモートのマウスポインタが同期しない。	デフォルトでは、ローカルとリモートのマウスポインタは接続時に自動的に同期するように設定されていますが、マウスの自動同期は Windows の USB マウスにしか対応しておりません。これ以外のマウスまたはプラットフォームをお使いの場合は、「Mouse Sync Mode」リストで設定内容を「Manual」に設定する必要があります。詳細に関しては p.47 をご参照ください。

◇ Sun VGA カードに関するトラブルの多くは、上記の方法で解決することが可能です。上記の手順で対応しても解決しない場合は Sun VGA カードのマニュアルを一度ご覧ください。

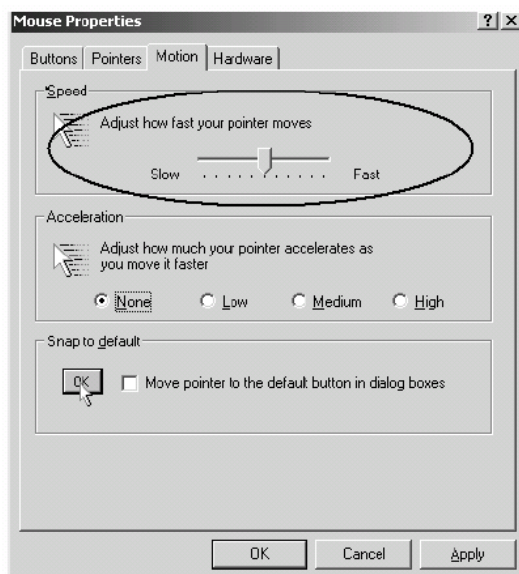
## その他のマウス同期方法

本マニュアルに記載されているマウスの同期の設定を適用したにもかかわらず、お使いのコンピュータでマウスポインタの問題が解決しない場合は、以下の設定を行ってください。

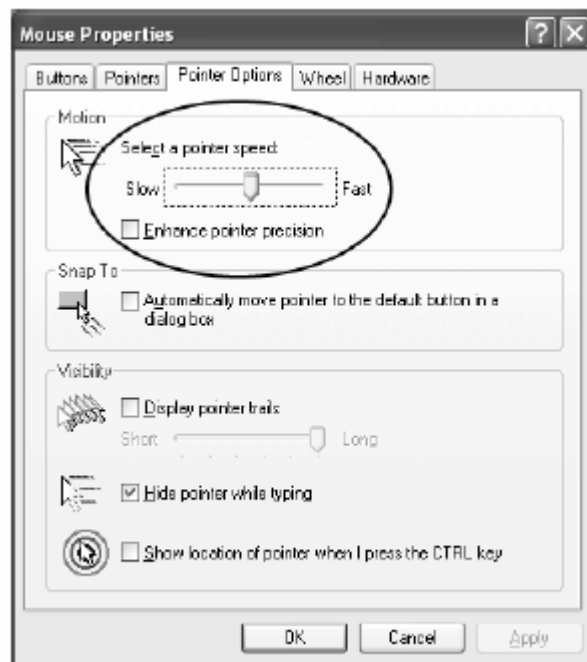
### Windows

**注意:** ローカルおよびリモートのマウスを同期させる場合は、Microsoft の OS に付属されているマウスドライバを使用する必要がありますので、マウスに付属されているドライバ等サードパーティのドライバを使用している場合は、これを削除しなければなりません。

1. Windows2000 がインストールされているコンピュータをお使いの場合は、以下の手順で設定を行ってください。
  - a) 「マウスのプロパティ」ダイアログを表示してください。([コントロールパネル]→[マウス]→[マウスのプロパティ])
  - b) 「マウスのプロパティ」ダイアログから、「動作」タブを開いてください。
  - c) マウスの速度のスライダーを中間に移動させてください。
  - d) 「ポインタの加速」で、「いいえ」のラジオボタンを選択してください。



2. Windows XP または Windows Server 2003 がインストールされているコンピュータをお使いの場合は、以下の手順で設定を行ってください。
  - a) 「マウスのプロパティ」ダイアログを表示してください。([コントロールパネル]→[マウス]→[マウスのプロパティ])
  - b) 「マウスのプロパティ」ダイアログから、「ポインタオプション」タブを開いてください。
  - c) マウスの速度のスライダーを中間に移動させてください。
  - d) 「ポインタの精度を高める」の項目からチェックをはずして、この機能を無効にしてください。



3. Windows ME がインストールされているコンピュータをお使いの場合は、マウスの速度を中間に設定し、マウスの加速機能を無効にしてください。(この設定を行う場合は、ダイアログから「詳細...」ボタンをクリックする必要があります)
4. Windows NT、Windows 98 または Windows 95 がインストールされているコンピュータをお使いの場合は、マウスの速度を一番遅い設定値に設定してください。

## Sun / Linux

ターミナルセッションを開き、以下のコマンドを実行してください。

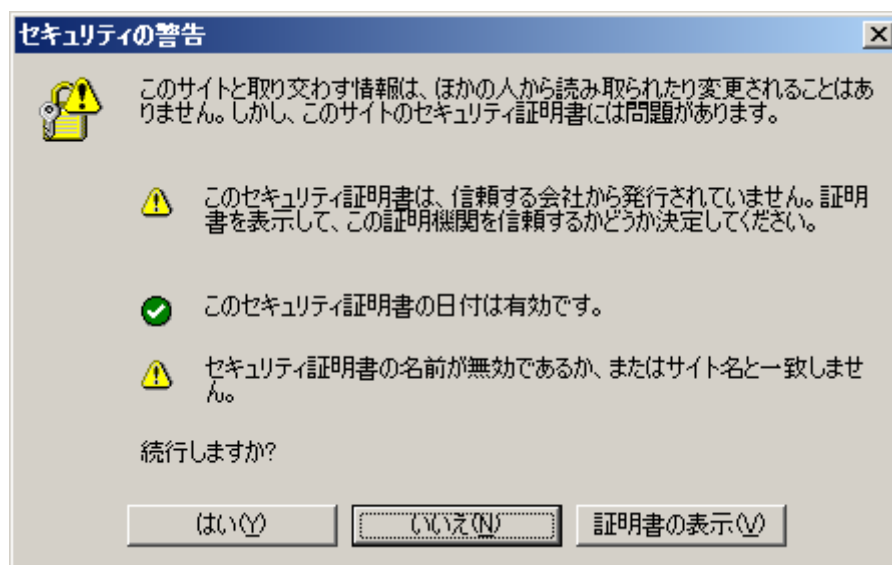
Sun の場合: `xset m 1`

Linux の場合: `xset m 0`

## 信頼された証明書

### 概要

ブラウザ経由で IP8000 にログインすると、以下のようなセキュリティ警告ダイアログが表示され、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



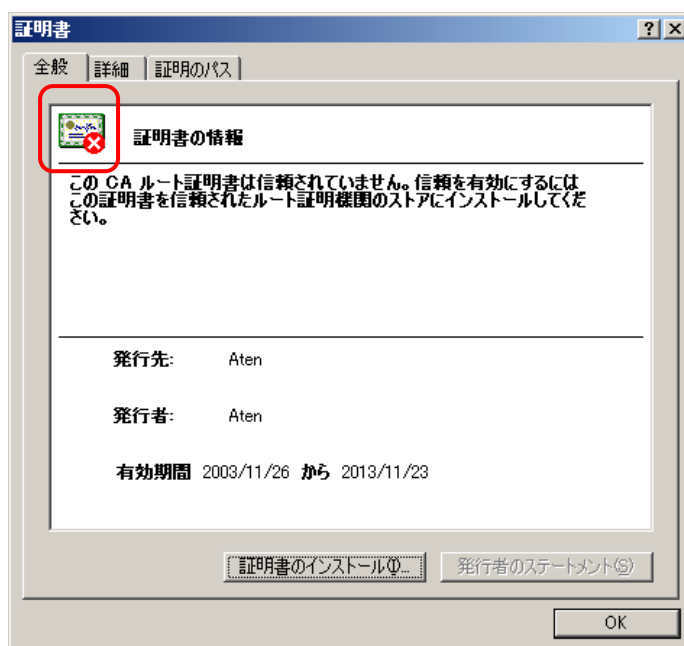
この証明書は信頼できるものですが、証明書の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないため、このようなダイアログが表示されます。このダイアログには以下のいずれかの方法で対応してください。

- 1) ダイアログの警告を受け入れず、「Yes」ボタンを押して、処理を続行する。
  - 2) 証明書をインストールし、信頼できるものと認識させる。
- ◆ 別のユーザーのコンピュータから作業している場合は「Yes」ボタンを押して、この証明書を現在のセッションのみ受け入れてください。
  - ◆ ご自身のコンピュータから作業している場合は、証明書をお使いのコンピュータにインストールしてください。証明書がインストールされると、信頼できる証明書として認識されます。方法の詳細については後述しますので、そちらをご参照ください。

## 証明書のインストール

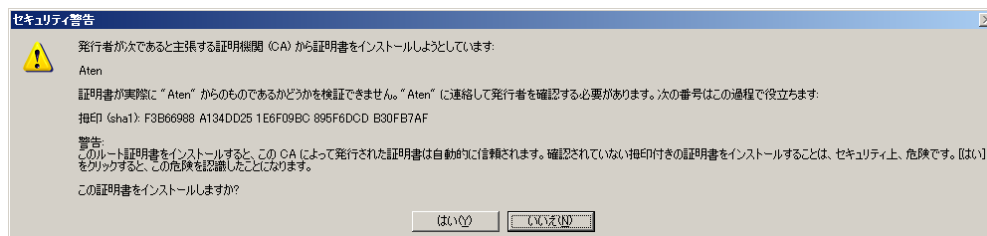
証明書のインストールは以下の手順で作業してください。

1. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスで、「証明書の表示」ボタンをクリックします。これをクリックすると以下のような「証明書」ダイアログボックスが表示されます。



**注意:** 上図内の赤い枠で囲まれている「×」の印は、この証明書は信頼できないと認識されていることを表しています。

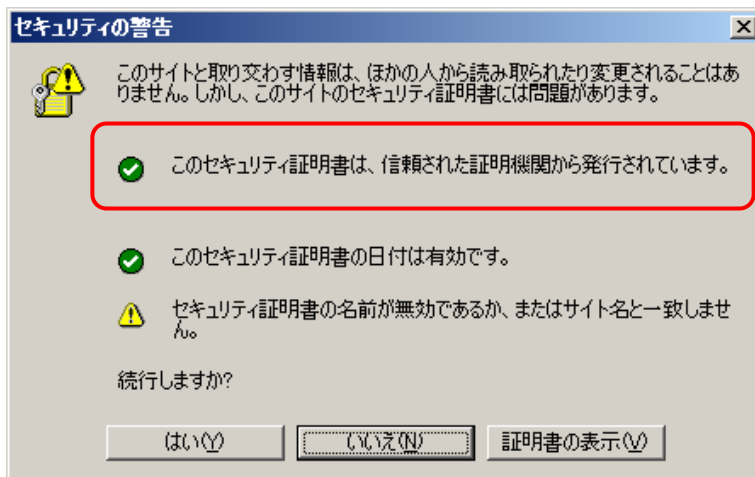
2. 「証明書のインストール」ボタンをクリックします。
3. インストールウィザードの指示に従って、インストールを進めていきます。特に不都合がない場合は、デフォルト値でインストールをしてください。
4. 以下のような警告ダイアログが表示されたら、「はい」ボタンを押してください。



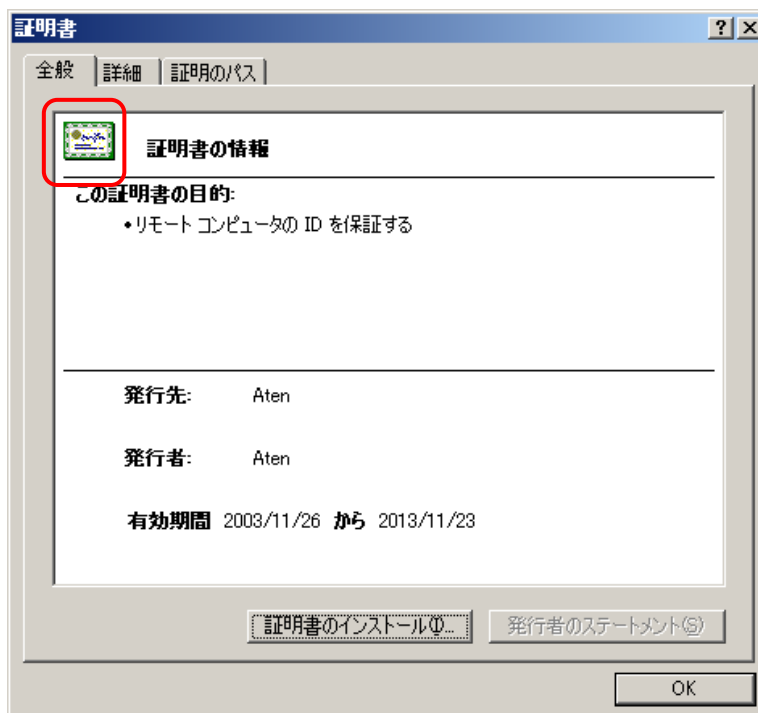
5. ダイアログから「完了」ボタンを押してインストール作業を完了させてください。「OK」ボタンを押すとダイアログが閉じられます。

## 証明書のインストール完了

この作業により、証明書は信頼できるものに変更されました。



「証明書の表示」ボタンをクリックすると、インストール前に見られた「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます。



## SPHD コネクタについて

---



本製品はKVMポート、またはコンソールポートに対してSPHDコネクタを使用しております。コネクタの形状に改良を加えておりますので、専用のKVMケーブルのみ製品に接続することが可能です。